CentreCOM[®] GS908SS CentreCOM[®] GS916SS CentreCOM[®] GS924SS

取扱説明書





ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。 電源ケーブルやブラグの取扱上の注意 ・加工しない、傷つけない。

- ・重いものをのせない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

正しく設置する 縦置き注意

取扱説明書に従って、正しく設置してください。 不適切な設置により、放熱が妨げられると、発熱による火災の原因となります。

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所(結露するような場所)
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所(仕様に定められた環境条件下でご使用ください)
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所(静電気障害の原因になります)
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。

▶ お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤(中性)をしみ こませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ペンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉 (化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。)







プラグを 坊く



正しく設置

はじめに

このたびは、CentreCOM GS908SS/GS916SS/GS924SS をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は 1000BASE-T (10BASE-T/100BASE-TX) ポートを8ポート(GS908SS) /16ポート(GS916SS)/24ポート(GS924SS)装備し、高さを1Uサイズ以内に抑 えたレイヤー 2Light ギガビット・インテリジェント・スイッチです。

GS916SS/GS924SS については、1000BASE-T ポートのうち2 ポートが SFP (mini-GBIC) スロットとのコンボ (共用) ポートで、オプション (別売) の SFP モジュールの 追加により 1000BASE-SX/1000BASE-LX ポート、長距離対応の 1000Mbps 光ポート、 および1 心双方向の 1000Mbps 光ポートの実装が可能です。また、動作時温度を 50℃ まで保証し、高温環境下での運用に対応しています。

GS908SSは、ファンレス設計により静音で小型なため、設置場所を選びません。

Telnet やコンソールポートから各機能の設定が可能で、ユーザーインターフェースはコ マンドライン形式をサポートしています。

最新のファームウェアについて

弊社は、改良(機能拡張、不具合修正など)のために、予告なく本製品のファームウェア のバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のファームウェア は、弊社ホームページから入手してください。

なお、最新のファームウェアをご利用の際は、必ず弊社ホームページに掲載のリリースノー トの内容をご確認ください。

http://www.allied-telesis.co.jp/

マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の3部で構成されています。 各マニュアルをよくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。また、お読みになっ た後も、製品保証書とともに大切に保管してください。

○ 取扱説明書(本書)

本製品の設置と接続、コマンドラインインターフェースの使い方、設定手順、導入 例など、本製品を使いはじめるにあたっての最低限の情報が記載されています。 本書は、ファームウェアバージョン「1.4.1」をもとに記述されていますが、「1.4.1」 よりも新しいバージョンのファームウェアが搭載された製品に同梱されることがあ ります。製品のご使用に当たっては、必ず弊社ホームページに掲載のリリースノー トをお読みになり、最新の情報をご確認ください。 コマンドリファレンス(弊社ホームページに掲載)
 本製品で使用できる全コマンドの説明、各機能の解説、設定例など、本書の内容を 含む本製品の完全な情報が記載されています。コマンドリファレンスは本製品には 同梱されていません。弊社ホームページに掲載されています。

http://www.allied-telesis.co.jp/



○ リリースノート(弊社ホームページに掲載)

ファームウェアリリースで追加された機能、変更点、注意点や、取扱説明書とコマンドリファレンスの内容を補足する最新の情報が記載されています。リリースノートは本製品には同梱されていません。弊社ホームページに掲載されています。 http://www.allied-telesis.co.jp/

表記について

アイコン

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明		
E YF	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。		
!	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。		
警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。		
参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。		

書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
User Entry	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライター体で表します。
Esc	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

製品名の表記

「本製品」と表記している場合は、CentreCOM GS908SS/GS916SS/GS924SSの すべてを意味します。場合によっては、GS908SS、GS916SS、GS924SSのように CentreCOM を省略して記載します。また、製品の図や画面表示例は、特に記載がないか ぎり、CentreCOM GS916SS を使用しています。

安全のために	4
はじめに	6
最新のファームウェアについて	6
マニュアルの構成	6
表記について	8

1 お使いになる前に

ъ.	0
	З

27

1.1	梱包内容	14
1.2	特 長	
1.3	各部の名称と働き 前面 背面 側面	
1.4	LED 表示 ポート LED	24

2 設置と接続

2.1	設置方法を確認する 設置するときの注意	28 28
2.2	19 インチラックに取り付ける	29
2.3	オプションを利用して設置する 壁設置ブラケットを使用する場合 壁設置用磁石を使用する場合	30 30 31
2.4	ネットワーク機器を接続する ケーブル	32 32
2.5	コンソールを接続する コンソール ケーブル	33 33 33
2.6	電源ケーブルを接続する	35

3 設定の手順

3.1	操作の流れ	38
3.2	設定の準備 コンソールターミナルを設定する 本製品を起動する	. 39 . 39 . 40
3.3	ログインする ログインする ログインパスワードを変更する	41 .41 .42
3.4	設定を始める コマンドの入力と画面 オンラインヘルプ コマンドの表記 主要コマンド	.43 .43 .47 .48 .49
3.5	設定を保存する	51
3.6	起動時設定ファイルを指定する	53
3.7	ログアウトする	54

4 基本の設定と操作

4.1	インターフェースを指定する ポートを指定する コンボポートの設定をする VLAN インターフェースを指定する	. 56 56 56 57
4.2	IP アドレスを設定する	.58
4.3	Telnet で接続する Telnet でログインする Telnet サーバー機能を無効にする Telnet サーバーの TCP ポート番号を変更する Telnet の最大セッション数を変更する Telnet サーバー機能の設定を確認する	. 59 59 59 60 60 60
4.4	PING を実行する	61
4.5	システム情報を表示する	.62

10

55

4.6	再起動する	64
4.7	ご購入時の状態に戻す	65
4.8	ファイルシステム ファイル名 ファイルを操作する	66 66 66
4.9	ダウンロード・アップロードする	69

5 導入例

73

91

しての基本設定	5.1
を使用した設定	5.2
VLAN を使用した設定	5.3

6 付 録

6.1 ログインする......100 画面の構成......101 メインエリアの操作......103 設定を保存する......104 6.4 ハイパーターミナルの設定......106 Telnet クライアントの設定......108 65 本製品の仕様......111

6.7	デフォルト設定	
6.8	保証とユーザーサポート	
	保証と修理	
	ユーザーサポート	
	サポートに必要な情報	

お使いになる前に

この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働きに ついて説明しています。

1.1 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。



本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包 のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

1.2 特 長

本製品の主な特長は次のとおりです。

ハードウェア

本製品のハードウェア的な特長とオプション(別売)製品を紹介します。オプション製品 のリリース時期については最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

- 1000BASE-T (10BASE-T/100BASE-TX) ポートを8ポート (GS908SS)、 16ポート (GS916SS)、24ポート (GS924SS) 装備
- 動作時温度を 50℃まで保証(GS916SS/GS924SS)
- SFP スロットを2スロット装備。SFP ポートは1000BASE-T ポートのうち2 ポートと共用 (GS916SS/GS924SS)
- 同梱の19インチラックマウントキットでEIA 規格の19インチラックに取り付け可能 (GS916SS/GS924SS)
- 未使用ポートの動作を休止し電力消費を抑える省電力モードに対応

オプション(別売)

SFP モジュールによりポートの拡張が可能(GS916SS/GS924SS)
 AT-MG8SX 1000BASE-SX (2連LC)

 AT-SPSX
 1000BASE-SX (2連LC)

 AT-SPLX10
 1000BASE-LX (2連LC)

 AT-SPLX40
 1000M SMF (40km) (2連LC)

 AT-SPZX80
 1000M SMF (80km) (2連LC)

AT-SPBD10-A/AT-SPBD10-B 1000BASE-BX10 (LC) AT-SPBD20-A/AT-SPBD20-B 1000M SMF (20km) (LC)

- 19 インチラックマウントキットで EIA 規格の 19 インチラックに取り付け可能(GS908SS) AT-RKMT-JO5
- 登設置用磁石でスチール面への取り付けが可能(GS908SS)
 マグネット Kit M
- 電源ケーブル抜け防止金具で本体からの電源ケーブルの抜けを防止
 AT-RTNR-01

1.2 特長

- 専用のマネージメントケーブルキット(コンソールケーブル3本セット)でコンソールのシリアルポート、USB ポートと接続 CentreCOM VT-Kit2 plus
- 専用の RJ-45/D-Sub 9 ピン (メス) 変換 RS-232 ケーブルでコンソールと接続 CentreCOM VT-Kit2

※ コンソール接続には「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」が必要です。

サポート機能

本製品の主な機能は次のとおりです。サポートする機能はファームウェアのバージョンに 依存しますので、詳細については最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

マネージメント

- ログ (RAM 上、および syslog サーバーへの出力が可能)
- スクリプト
- NTP (Network Time Protocol) クライアント機能
- ターミナル(Telnet/VT100 互換端末)
- RADIUS サーバーによる認証が可能
- Web GUI
- FTP によるファームウェアのダウンロード、設定スクリプトファイルのダウンロード・アップ
 ロードが可能

スイッチング

- MDI/MDI-X 自動切替(1000BASE-T ポートは MDI/MDI-X 手動切替設定も可能)
- SFP/1000BASE-T コンボ(共用)ポートの優先ポートを設定可能(GS916SS/GS924SS)
- フローコントロール (IEEE 802.3x PAUSE/ 受信)
- ポートトランキング (IEEE 802.3ad (Manual Configuration))
- ポートミラーリング
- MAC アドレスフィルタリングによるポートセキュリティー
- イングレスフィルタリング
- ポート認証(802.1X 認証 / ダイナミック VLAN)
- パケットストームプロテクション
- ループガード(LDF 検出 / 受信レート検出)
- 〇 HOL ブロッキング防止(常時有効)
- EAP/BPDU パケット透過
- 9216Byte (100Mbps 時は 9000Byte 以下)の Jumbo フレーム対応
- 統計情報の表示が可能

1.2 特長

バーチャル LAN

- ポート VLAN
- マルチプル VLAN(セレクタブル・ポート VLAN)
- 〇 IEEE 802.1Q タグ VLAN

フォワーディングデータベース

- 最大 8K の MAC アドレス登録
- スタティックエントリー(最大 2048 件)

QoS

- O IEEE 802.1p
- DiffServ

アクセスフィルター

○ 本製品宛の通信に対して最大512件のフィルターエントリーを登録可能

IP マルチキャスト

○ IGMP v2 スヌーピング

1.3 各部の名称と働き

前面





① 1000BASE-T (10BASE-T/100BASE-TX) ポート

UTP ケーブルを接続するコネクター(RJ-45)です。

ケーブルは 10BASE-T の場合はカテゴリー 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリー 5 以上、1000BASE-T の場合はエンハンスド・カテゴリー 5 の UTP ケーブルを使用し ます。接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート / クロスのどち らのケーブルタイプでも使用することができます。通信モードは、デフォルトでオートネ ゴシエーション(AUTONEGOTIATE)が設定されています。

GS916SS のポート 15R, 16R、GS924SS のポート 23R, 24R は SFP ポートとのコンボ
 (共用) ポートです。デフォルトでは、1000BASE-T ポートと SFP ポートが同時に接続され
 ている場合(両方リンク可能な状態にある場合)、SFP ポートが優先的にリンクするよう設定されています(FIBERAUTO)。同時接続時、SFP ポートのリンクがダウンした場合は自動的に
 1000BASE-T ポートにリンクが切り替わります。
 SET SWITCH PORT コマンドで、使用可能なポートをどちらか一方に固定設定することもで

SET SWITCH PORT コマンドで、使用可能なポートをどちらか一方に固定設定することもできます。

1.3 各部の名称と働き

② ポート LED

1000BASE-T ポートと接続先の機器の通信状況を表示する LED ランプです。

○ 10M、100M

通信速度を表します。

10M は 10Mbps、100M は 100Mbps、10M と 100M の両方が点灯している場合 は 1000Mbps でのリンクを表します。ただし、SFP ポートの場合は、1000Mbps でリンクしても 10M/100M LED は点灯しません(1000BASE-T ポートと区別す るため、10M/100M LED は使用しません)。

○ LINK/ACT

接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

デュプレックスを表します。

 24 ページ「LED 表示」

③ コンソールポート

コンソールを接続するコネクター(RJ-45)です。 ケープルはオプション(別売)のコンソールケーブル「CentreCOM VT-Kit2 plus」、ま たは「CentreCOM VT-Kit2」を使用してください。

|登照||33ページ「コンソールを接続する」

④ ステータス LED

本製品全体の状態を表示する LED ランプです。

○ FAULT

本製品の異常やフラッシュメモリーへの書き込み中であることを表します。

\bigcirc POWER

本製品の電源供給状態を表します。

24ページ「LED 表示」

⑤ リセットボタン (GS916SS/GS924SS)

本製品を再起動するためのボタンです。

先の細い棒などでリセットボタンを押すと、本製品はハードウェア的にリセットされます。

⑥ SFP スロット (GS916SS/GS924SS)

オプション(別売)の SFP モジュール(以下、SFP と省略します)を装着するスロットです。 ご購入時には、ダストカバーが取り付けられています。ダストカバーは、SFP を装着す るとき以外、はずさないようにしてください。

● 第二日 「● 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100 ○ 100

GS916SS のポート 15, 16、GS924SS のポート 23, 24 は 1000BASE-T ポートとのコ ンボ (共用) ポートです。デフォルトでは、1000BASE-T ポートと SFP ポートが同時に接続 されている場合(両方リンク可能な状態にある場合)、SFP ポートが優先的にリンクするよう設 定されています(FIBERAUTO)。同時接続時、SFP ポートのリンクがダウンした場合は自動 的に 1000BASE-T ポートにリンクが切り替わります。 SET SWITCH PORT コマンドで、使用可能なポートをどちらか一方に固定設定することもで きます。

⑦ 通気口

本製品内部の熱を逃すための穴です。

Ⅰ. 通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。 注意

1.3 各部の名称と働き



CentreCOM® GS916SS/GS924SS

⑧ 電源コネクター

AC 電源ケーブルを接続するコネクターです。 同梱の電源ケーブルは AC100V 用です。GS916SS/GS924SS を AC200V でご使用の 場合は、設置業者にご相談ください。

35ページ「電源ケーブルを接続する」

⑨ フック取り付けプレート

オプション(別売)の電源ケーブル抜け防止フック「AT-RTNR-01」を取り付けるプレートです。

35ページ「電源ケーブルを接続する」

側面



10 ブラケット用ネジ穴

19インチラックマウントキットのブラケットを取り付けるためのネジ穴です。 29ページ「19インチラックに取り付ける」

① ファン

本製品内部の熱を逃すためのファンです。2個のファンのうち前面側がFAN2、背面側が FAN1になります(SHOW SYSTEM コマンドで各ファンの状態が監視できます)。



1.4 LED 表示

本体前面には、本製品全体や各ポートの状態を示す LED ランプがついています(下図は GS916SS)。



ポート LED

4 種類の LED ランプで各ポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
10M 緑 点灯		点灯	10Mbps でリンクが確立しています。
100M 緑 点灯 100Mbps でリンクが確立しています。		100Mbps でリンクが確立しています。	
101/1001	緑	点灯	1000Mbps でリンクが確立しています。*
	—	消灯	リンクが確立していません。*
	<u> </u>	点灯	リンクが確立しています。
LINK/ACT	NOR	点滅	パケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
	緑	点灯	Full Duplex でリンクが確立しています。
DPX	_	消灯	Half Duplex でリンクが確立しています。 またはリンクが確立していません。

※ ただし、SFP ポートの場合は、1000Mbps でリンクしても 10M/100M LED は点灯しません (1000BASE-T ポートと区別するため、10M/100M LED は使用しません)。

ステータス LED

2 種類の LED ランプで各ポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	本製品のシステムに異常があります。
		1 回点滅	本製品起動中、ファームウェアダウンロード中、また はフラッシュメモリーに書き込み中です。* 1
			本製品のファンに異常があります。*2
		3回点滅*3	本製品の電圧に異常があります。
		6回点滅*3	本製品の内部温度に異常があります。
		点滅	フラッシュメモリーに書き込み中です。
	_	消灯	本製品に異常はありません(フラッシュメモリーに書 き込み中ではありません)。
POWER	緑	点灯	本製品に電源が供給されています。
	_	消灯	本製品に電源が供給されていません。

※1 約1秒の点灯と約1秒の消灯を繰り返します。

※2 点滅と点滅の間に約2秒間の消灯時間があります。

※3 3回/6回の速い点滅の後、約2秒間の消灯時間があります。

2

設置と接続

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明して います。

2.1 設置方法を確認する

本製品は次の方法による設置ができます。

- ゴム足による水平方向の設置
 本製品を卓上や棚などの水平な場所に設置する場合は、底面のゴム足を使用して設置してください(ゴム足はあらかじめ底面に取り付けられています)。ゴム足は、本製品への衝撃を吸収したり、本製品の滑りや設置面の傷つきを防止します。
- ラックマウントキットによる 19 インチラックへの水平設置
- 壁設置ブラケットによる壁面への設置
- マグネットキットによるスチール面への設置(GS908SS)

弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されてい 警告ない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、正常な放熱ができな くなり、火災や故障の原因となります。

設置するときの注意

本製品の設置や保守を始める前に、必ず4ページの「安全のために」をよくお読みください。 設置については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置は避けてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 充分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 底面を上にして設置しないでください。
- 本製品の上に物を置かないでください。また、GS908SS 同士を重ねて設置しないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクターの端子に触らないでください。静電気を帯びた手(体)でコネクターの端子に触れると静電気の放電により故障の原因になります。

2.2 19 インチラックに取り付ける

GS916SS/GS924SS は同梱の 19 インチラックマウントキットを使用して、EIA 規格の 19 インチラックに取り付けることができます。

GS908SSはオプション(別売)の19インチラックマウントキット「AT-RKMT-J05」に 対応しています。取り付け方法については、オプションに付属の取扱説明書を参照してください。

- 1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
- **2** 本体底面の四隅にネジ止めされているゴム足を、ドライバーではずします。
- 3 同梱のブラケット用ネジを使用して、本体両側面にブラケットを取り付けます。片 側に3個のネジを使用します。



4 ラックに付属のネジを使用して、19インチラックに本製品を取り付けます。



ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用し、19 インチラックに適切なネジ で確実に固定してください。 固定が不充分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

2.3 オプションを利用して設置する

本製品は以下のオプション(別売)を使用して壁面やスチール面に取り付けることができます。

GS908SS :

- 19インチラックマウントキット「AT-RKMT-J05」を使用して19インチラックに取り付ける
- 壁設置ブラケット「AT-BRKT-J23」を使用して壁面に取り付ける
- 壁設置用磁石「マグネット Kit M」を使用してスチール面に取り付ける

GS916SS/GS924SS :

○ 壁設置ブラケット「AT-BRKT-J22」を使用して壁面に取り付ける

取り付け方法については、各オプションに付属の取扱説明書を参照してください。

壁設置ブラケットを使用する場合

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

GS908SS



GS916SS/GS924SS





壁設置ブラケットに取り付け用ネジは同梱されていません。別途ご用意ください。 壁設置ブラケットを使用する際は、本製品からゴム足をはずしてください。



めず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、 ↓ 火災や故障の原因となります。



壁設置ブラケットを使用して壁面に取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。 どのでする。

個定が不充分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

壁設置用磁石を使用する場合

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

GS908SS



マグネットキットを使用する際は、本製品からゴム足をはずしてください。 ヒント

と
置面の状態によっては、マグネットの充分な強度を得られない場合があります。
注意

必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、
 [●]告 火災や故障の原因となります。

マグネットの取り付けおよび機器の設置は、ケーブルなどの重みにより機器が落下しないよう 警告に確実に行ってください。ケガや機器故障の原因となる恐れがあります。

31

2.4 ネットワーク機器を接続する

本製品にコンピューターや他のネットワーク機器を接続します。

ケーブル

UTP ケーブルのカテゴリー

10BASE-T の場合はカテゴリー3以上、100BASE-TX の場合はカテゴリー5以上、 1000BASE-T の場合はエンハンスド・カテゴリー5以上の UTP ケーブルを使用し ます。

UTP ケーブルのタイプ

通信モードがオートネゴシエーションの場合、MDI/MDI-X 自動切替機能が有効に なり、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート / クロスの どちらのケーブルタイプでも使用することができます。 MDI/MDI-X 自動切替を無効に設定する、または通信モードをオートネゴシエーショ ン以外に固定設定する場合は、MDI または MDI-X のどちらかに設定する必要があ ります(デフォルトは MDI-X)。接続先のポートが MDI の場合は本製品のポートを MDI-X に、接続先のポートが MDI-X の場合は本製品のポートを MDI に設定すれば、 ストレートタイプでケーブル接続ができます。 コンポポートで MDI/MDI-X 自動切替を無効にする、または通信モードをオートネ ゴシエーション以外に固定設定することはできません。

UTP ケーブルの長さ

本製品とネットワーク機器を接続するケーブルの長さは100m以内にしてください。



2.5 コンソールを接続する

本製品に設定を行うためのコンソールを接続します。本製品のコンソールポートは RJ-45 コネクターです。弊社販売品の CentreCOM VT-Kit2 plus、または CentreCOM VT-Kit2 を使用して、本体前面のコンソールポートとコンソールのシリアルポート(また は USB ポート)を接続します。



CentreCOM VT-Kit2 plus、または CentreCOM VT-Kit2 を使用した接続以外は動作保証を いたしませんのでご注意ください。

コンソール

コンソールには、VT100をサポートした通信ソフトウェアが動作するコンピューター、または非同期の RS-232 インターフェースを持つ VT100 互換端末を使用してください。

通信ソフトウェアの設定については、39ページ「コンソールターミナルを設定する」で説明します。

ケーブル

ケーブルは弊社販売品の CentreCOM VT-Kit2 plus、または CentreCOM VT-Kit2 をご使用ください。

- CentreCOM VT-Kit2 plus: マネージメントケーブルキット 以下のコンソールケーブルが3本セットになっています。
 - ・D-Sub 9 ピン (オス) /D-Sub 9 ピン (メス)
 - ・RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)
 - ・D-Sub 9 ピン(オス)/USB

ご使用のコンソールのシリアルポート(D-Sub 9ピン)または USB ポートへの接続が可能です。なお、USB ポート使用時の対応 OS は Windows XP と Windows 2000 です。

○ CentreCOM VT-Kit2: RJ-45/D-Sub 9 ピン (メス) 変換 RS-232 ケーブル

2.5 コンソールを接続する



34

2.6 電源ケーブルを接続する

本製品は、電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

- 1 電源ケーブルを本体背面の電源コネクターに接続します。
- **2** 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。



3 電源が入ると、本体前面の POWER LED (緑) が点灯します。

電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。

GS908SS を使用する場合、および GS916SS/GS924SS を AC100V で使用する場合は、 管告 同梱の電源ケーブルを使用してください。GS916SS/GS924SS を AC200V で使用する場合は、設置業者にご相談ください。不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

【
 電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。
 注意

本製品には、オプション(別売)で、電源ケーブルの抜けを防止する金具「AT-RTNR-01」が 用意されています。取り付け方法に付いては、オプション付属の取扱説明書を参照してください。

35

3

設定の手順

この章では、本製品に設定を行うための手順と、基本的な操作 方法について説明しています。

3.1 操作の流れ


コンソールターミナルを設定する

本製品に対する設定は、コンソールポートに接続したコンソール、またはネットワーク上 のコンピューターから Telnet を使用して行います。

コンソールターミナル(通信ソフトウェア)に設定するパラメーターは次のとおりです。

項目	值
通信速度	9,600bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの送信方法	Ctrl + H
エンコード方法	シフト JIS (SJIS)

通信ソフトウェアとして、Windows 2000/XPに標準装備のハイパーターミナルを使用する ▶ 場合は、106ページ「ハイパーターミナルの設定」を参照してください。

Telnetを使用する場合は、あらかじめローカルから本製品にIPアドレスを割り当てておく必要があります。 ヒシ

●照 58 ページ「IP アドレスを設定する」

「差照 59 ページ「Telnet でログインする」

本製品を起動する

- コンピューター(コンソール)の電源を入れ、ハイパーターミナルなどの通信ソフトウェアを起動します。
- 2 本製品の電源を入れます。
 2 35ページ「電源ケーブルを接続する」
- **3** 自己診断テストの実行後、システムソフトウェアが起動します。また、起動時設定ファ イルが指定されていれば、ここで読み込まれます。

```
nvram CRC: computed b0, stored b0
CFE version 1.2.0 for Light managed switch series (32bit, SP, BE, MIPS)
Build Date: Wed Feb 6 14:11:39 JST 2008
Copyright (C) 2000,2001,2002,2003 Broadcom Corporation.
Initializing Arena.
Initializing PCI. [normal]
Initializing Devices.
CPU type 0x29006: 200MHz
Total memory: 0x2000000 bytes (32MB)
Total memory used by CFE: 0x81F71000 - 0x81FFF280 (582272)
                             0x81FBB204 - 0x81FBC390 (4492)
Initialized Data:
                           0x81FBC390 - 0x81FBD270 (3808)
BSS Area:
Local Heap:
                            0x81FBD280 - 0x81FFD280 (262144)
                            0x81FFD280 - 0x81FFF280 (8192)
Stack Area:
Text (code) segment:
                           0x81F71000 - 0x81FBA560 (300384)

        Boot area (physical):
        0x01F30000 - 0x01F70000

        Relocation Factor:
        I:E2371000 - D:E2371000

Initializing Boot parameters.
Loader:elf Filesys:raw Dev:flash1.os File:vmlinux Options: (null)
Loading: 0x80002000/1499664 0x80172000/1253376 0x802a4000/213024 Entry at
0x80002474
Starting program at 0x80002474
```

4 「login:」プロンプトが表示されます。

login:

3.3 ログインする

ログインする

本製品に登録されているユーザーアカウントは「manager」です。このアカウントでロ グインして、本製品に対する管理・設定作業を行います。

login:

「login: | プロンプトが表示されたら、ユーザー名「manager」を入力します。 1 ユーザー名は大文字・小文字を区別しません。

login: manager Enter

2 「Password: | プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。 初期パスワードは「friend」です。パスワードは大文字・小文字を区別します。実 際の画面では入力した文字は「*」で表示されます。

Password: friend Enter

製品タイトルに続けて「Manager >」プロンプトが表示されます。 З 本製品に対する設定や管理は、このプロンプトの後にコマンドを入力することによ り行います。

```
Allied Telesis CentreCOM GS916SS Ethernet Switch
Ethernet Switch Software: Version 1.4.1
MAC Address: 00-09-16-00-02-03
Running 50secs
```

Manager >

ユーザー名またはパスワードが間違っている場合は、次のメッセージが表示されて ログインできません。再度「login: 」プロンプトに続けて、正しいユーザー名とパ スワードを入力してください。

Login	incorrect.
login:	

▲ Telnet 接続の場合、ログインプロンプトが表示されてから1分以内にログインしないと、 】 Telnet セッションが切断されます。 1-1

、ログインセッションのタイムアウト時間はデフォルトで 300 秒に設定されているため、ログイ ン後、キー入力がない状態が300秒(5分)継続すると自動的にログアウトします。タイムア ウト時間は SET CONSOLE コマンドで変更することができます。

41

ログインパスワードを変更する

ログインパスワードの変更を行います。セキュリティー確保のため、初期パスワードは変 更することをお勧めします。

使用コマンド

SET PASSWORD

1 ログインします。実際の画面では、入力したパスワードは「*」で表示されます。

login: manager Enter Password: friend Enter

2 パスワードの設定を行います。

Manager > set password Enter

3 現在のパスワードを入力します。 ここでは、初期パスワードの「friend」を入力します。実際の画面では、入力した パスワードは「*」で表示されます。

Old password: **friend** Enter

4 新しいパスワードを入力します。 1~16文字の英数字で入力してください(文字列を入力しないとパスワードなしになります)。パスワードは大文字・小文字を区別します。 ここでは新しいパスワードを「openENDS」と仮定します。実際の画面では、入力したパスワードは「*」で表示されます。

New password: openENDS Enter

5 確認のため、もう一度新しいパスワードを入力します。実際の画面では、入力した パスワードは「*」で表示されます。

Confirm : openENDS Enter

確認の入力に失敗すると、次のメッセージが表示されます。手順2からやり直して ください。

SET PASSWORD, confirm password incorrect.



パスワードは忘れないように注意してください。

コマンドの入力と画面

コマンドプロンプト

コマンドプロンプトには、ユーザー名の「Manager >」が表示されます。

Manager >

SET SYSTEM NAME コマンドでシステム名(MIB-II オブジェクト sysName)を設定 すると、「>」の前にシステム名が表示されます。複数のシステムを管理しているような 場合、システム名にわかりやすい名前を付けておくと各システムを区別しやすくなり便利 です。

Manager > **set system name=sales** Enter Operation successful.

Manager sales>



コマンドライン編集キー

コマンドラインでは、次のような編集機能を使うことができます。

機能	ターミナルのキー
1 文字左 / 右に移動	$\leftarrow \cdot \mathbb{C}_{\mathrm{TI}} + \mathbb{B} / \rightarrow \cdot \mathbb{C}_{\mathrm{TI}} + \mathbb{F}$
行頭 / 行末に移動	
カーソルの左の文字を削除	Backspace · Ctrl + H
カーソルの上の文字を削除	
カーソルの上から右の文字をすべて削除	
コマンド行の消去	
前のコマンドを表示(履歴をさかのぼる)	
次のコマンドを表示(履歴を進める)	i · Ctrl + N
入力途中のキーワードの補完 次に選択可能なキーワードの一覧表示	[(∠^^_) • [Tab] • [Ctr] + []

3.4 設定を始める

次に選択可能なキーワードを表示する

(スペース)、 (Tab) または (Ctrl) + (1) キーを押すと、コマンドの先頭キーワードとして有効な単語とその概要が一覧で表示されます(表示項目はファームウェアのバージョンによって異なる可能性があります)。

Manager >	(スペース)						
ACTIVATE	ADD	CLEAR	CLS	COPY	CREATE	DELETE	DESTROY
DISABLE	ENABLE	FLUSH	HELP	LOGOUT	PING	PURGE	RESET
RESTART	SET	SHOW					

コマンドの入力途中で、半角スペースを入力して(スペース)、TablまたはCtrl + [] キーを 押すと、次に選択可能なキーワードが表示されます。例として、setを入力し、さらに半 角スペースを一文字入力した上で(スペース) キー((スペース) キーを2回)を押します。

Manager > set (スペ-	-ス)		
ACCESS	ASYN	AUTHENTICATION	CONFIG
CONSOLE	DATE	FTP	HTTP
IGMPSNOOPING	IP	LOG	NTP
PASSWORD	PORTAUTH	QOS	RADIUS
RADIUSACCOUNTING	SWITCH	SYSTEM	TELNET
TIME	VLAN		

キーワードの補完機能を利用する

キーワードの入力途中で半角スペースを入れずに(スペース)、Tab または Ctrl + II キーを 押すと、キーワードが1つに特定される場合は、自動的にキーワードの残りが補われ、 正しいキーワードが入力されます。該当するキーワードが複数ある場合は、キーワードの 一覧が表示されます。

sh を入力して(半角スペースを入れずに)[スペース] キーを押した場合は、キーワードが 「show」に特定され、show と入力されます。

Manager > sh (ス	ペース)
Ļ	[(スペース)] キー入力後、表示が次のように変わる
Manager > show	

sを入力して(半角スペースを入れずに)(スペース)キーを押した場合は、該当するキーワードが一覧で表示されます。

```
Manager > s (スペース)
SET SHOW
```

SHOW SWITCH PORT コマンドで PORT パラメーターに値を指定せず(省略可能)、 SUMMARY や SECURITY といったオプションを指定する場合は、PORT の後に [スペース] キー を 2 回続けて押します(1 回目は補完機能によって = が入力されますが、2 回目には = が消え て半角スペースが入力されます)。

コマンド入力時の注意

コマンド入力時には次のことに注意してください。

- 1 行で入力できるコマンドの最大文字数はスペースを含めて 512 文字です。
- 「ADD」、「IP」などのキーワード(予約語)は大文字・小文字を区別しません。 ログインパスワードやファイル名など一部のパラメーターは大文字・小文字を区別 します。「コマンドリファレンス」を確認して入力してください。
- コマンドは一意に識別できる範囲で省略することができます。 例えば、SHOW SYSTEM コマンドは「SH SY」と省略して入力することができま す(自動的にキーワードの残りが補われ、正しいキーワードが入力されます)。
- コマンドの実行結果はすぐに本製品に反映され、再起動を行う必要はありません (VLAN モード変更時、ポートトランキング設定(変更)時を除く)。 ただし、設定内容は再起動すると消去されるので、再起動後にも同じ設定で運用し たい場合は CREATE CONFIG コマンドで設定スクリプトファイルに保存してくだ さい。

51 ページ「設定を保存する」

メッセージ表示

コマンドの入力後、実行結果や構文エラーを知らせるメッセージが表示されます。

○ コマンドが正しく実行された場合

```
Manager > set system name=sales [Enter]
 Operation successful.
```

 \bigcirc コマンドが不完全な場合

Manager > set [Enter]

Unexpected end of line.

 \bigcirc 該当するコマンドがない場合

Manager > set systemname=sales [Enter]

Command syntax error.

45

3.4 設定を始める

○ 必要なパラメーターまたは値が指定されていない場合

Manager > set system Enter

Parameter error or Invalid value.

表示内容が複数ページにわたる場合

デフォルトの端末設定では、1ページあたりの行数が22に設定されています。コマンドの出力結果が22行よりも長い場合は21行ごとに表示が一時停止し、最下行に次のようなメッセージが出力され、キー入力待ち状態になります。

--More-- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)

この場合、キー入力によって、次のような操作を行うことができます。

機能

ターミナルのキー

次の 1 ページを表示する	$\left[(\overline{\lambda}\sqrt[n]{-}\overline{\lambda})\right]$
次の1行を表示する	Enter
残りすべてを続けて表示する	C
残りを表示せずにプロンプトに戻る	Q

ページあたりの行数は SET CONSOLE コマンドで変更できます。ただし、ログインセッション(コンソールターミナル、Telnet セッションなど)ごとに異なるため、設定スクリプトには保存されません。

Manager > set console page=30 Enter

ページ単位の一時停止を無効にするには、PAGE パラメーターに OFF を指定します。

Manager > set console page=off Enter

オンラインヘルプ

本製品には、日本語オンラインヘルプが用意されています。HELP コマンドを実行すると、 オンラインヘルプのトップページが表示されます。

Manager > help Enter	
GS908SS/GS916SS	/GS924SS オンラインヘルプ
This online help is wr	ritten in Japanese.
ヘルプは次のトピックを 入力は大文字の部分だけ	説明しています。 でかまいません。("HELP KEYBIND" は "H K"と省略可)
Help Accessfilter Help Configuration Help FDb Stem Help FIlesystem Help Http Help IGmpsnooping Help LOG Help Ntp Help QOS Help Portauth Help SYstem Help SYstem Help SWitch Help SWitch Help SWitch Help Tormdetection Help Terminal Help Vlan	アクセスフィルター コンフィグレーション フォワーディングデータベース ファイルシステム HTTPサーバー IP IPマルチキャスト ログ OOS ボートーバー システム スイッチング ループトストーム スイッチング ループドストービス バーチャルLAN
Help Keybind	キーバインド

トップページの一覧からトピックを指定します。入力は大文字の部分だけでかまいません ("Help SYstem" は "H SY" と省略可)。例として「Help SYstem」を指定します。

Manager > h sy Enter				
GS908SS/GS916S	5/GS924SS オンラインヘルプ			
システム				
Help CLS Help HElp Help LOGOUT Help RESTart Help SEt PAssword Help SEt PAssword Help SEt PIssem Help SHow SYstem Help SHow TIme	現在表示中の画面を消去 オンラインヘルブを表示 ログインセッションからのログアウト システムの再起動 システムの情報に関するMIBオブジェクトの値を設定 ログインパスワードを変更 システム時計の日付と時刻を設定 システム情報を表示 現在の日付と時刻を表示			

コマンドが1つに特定されると構文とパラメーターの説明が表示されます。例として「Help SEt Time」を指定します。

```
Manager > h se ti Enter
システム時計の日付と時刻を設定します。
SET [TIME=time] [DATE=date]
[time] 時刻(hh:mm:ssの形式。hhは時(0~23)、mmは分(0~59)、ssは秒(0~59))
[date] 日付(yyyy-mm-ddの形式。yyyyは西暦年、mmは月(1~12)、ddは日(1~31))
```

3.4 設定を始める



コマンドの入力途中で半角スペースを入れずに ET または ?? キーを押した場合も、構文 とパラメーターの説明を表示することができます。

```
Manager > set time F1
システム時計の日付と時刻を設定します。
SET [TIME=time] [DATE=date]
[time] 時刻(hh:mm:ssの形式。hhは時(0~23)、mmは分(0~59)、ssは秒(0~59))
[date] 日付(yyyy-mm-ddの形式。yyyyは西暦年、mmは月(1~12)、ddは日(1~31))
```

コマンドが特定できない場合は「Unknown help command.」と表示されます。

Manager > **set t** [F1] Unknown help command.

コマンドの表記

本書では、次のような基準にしたがってコマンドの構文を表記しています(入力例は大文 字・小文字の区別があるもの以外すべて小文字で表記)。

SET NTP	PEER=ipadd] [UTCOFFSET={time-zone utc-offset}] [LISTENPORT={165535}]
大文字	大文字の部分はコマンド名やパラメーター名などのキーワード(予約語) を示します。キーワードにナ文字・小文字の区別はありませんので、小
	文字で入力してもかまいません。一方、キーワードでない部分(パラメー
	ター値など)には、大文字・小文字を区別するものもありますので、各
	パラメーターの説明を参照してください。
小文字	小文字の部分は値を示します。コマンド入力時には、環境に応じて異な
	る文字列や数字が入ります。例えば、PEER=ipadd のような構文では
	ipadd の部分に具体的な IP アドレスを入力します。
165535	「xy」は x ~ y の範囲の数値を指定することを示します。指定できる数
	値の範囲はコマンドにより異なります。
{ }	ブレース({})で囲まれた部分は、複数の選択肢からどれか 1 つを指定
	することを示します。選択肢の各項目は縦棒(¦)で区切られます。例えば、
	UTCOFFSET={time-zone¦utc-offset} は、UTCOFFSET パラメーター
	の値として time-zone か utc-offset のどちらか一方だけを指定すること
	を示しています。
[]	スクエアブラケット([])で囲まれた部分は省略可能であることを示し
	ます。

主要コマンド

本製品のコマンドは大きく設定コマンドと実行コマンドの2種類に分類されます。

設定コマンド

設定コマンドは、本製品に対してパラメーターの追加・削除、有効・無効などを行うため のコマンドで、その内容はコマンド実行後も保持されます。内容によっては、複数の設定 コマンドを組み合わせて有効になるものもあります。 設定コマンドで実行された内容は、CREATE CONFIG コマンドで設定スクリプトに保存 し、SET CONFIG コマンドで次回の起動時に読み込まれるようにします。 代表的な設定コマンドには次のようなものがあります。

ADD / DELETE

ADDは、既存の項目に情報を追加・登録をするコマンドです。インターフェースへのIP アドレスの付与、VLAN やトランクグループへのポートの割り当てなどに使用します。 DELETE は、ADD で追加・登録した内容を削除するコマンドです。

CREATE / DESTROY

CREATE は、存在していない項目を作成するコマンドです。設定スクリプトファイルや、 VLAN、トランクグループの作成などに使用します。 DESTROY は、CREATE で作成した項目を消去するコマンドです。

ENABLE / DISABLE

ENABLEは、ステータスを有効にするコマンドです。モジュールやインターフェースを 有効にする場合などに使用します。 DISABLEは、ステータスを無効にするコマンドです。

PURGE

指定した項目の設定内容をすべて消去し、デフォルト設定に戻すコマンドです。ログの設定やNTPの設定の全消去に使用します。不用意に実行しないよう注意してください。

SET

ADD コマンドや CREATE コマンドで追加・作成された設定の変更と、環境設定を行う コマンドです。システム名の設定や、起動時設定ファイルの指定などに使用します。

49

3.4 設定を始める

実行コマンド

実行コマンドは、ログイン・ログアウト、ヘルプの表示、PINGテストなど、その場で動作が終了するコマンドです。内容がコマンド実行後に保存されることはありません。内容によっては、実行コマンドを使用する前に、設定コマンドによる設定が必要なものもあります。

代表的な実行コマンドには次のようなものがあります。

ACTIVATE

ACTIVATEは、既存の設定や機能を手動で動作(起動)させるコマンドです。スクリプトの実行やオートネゴシエーションプロセスの実行に使用します。

CLEAR

フラッシュメモリーの初期化など、すべてのデータを消去するコマンドです。

HELP

オンラインヘルプを表示するコマンドです。 経済
47ページ「オンラインヘルプ」

LOGOFF, LOGOUT, QUIT, EXIT, BYE

ログアウトするコマンドです。 医題 54ページ「ログアウトする」

PING

RESET

設定内容は変更せずに、実行中の動作を中止して、初めからやりなおすコマンドです。

RESTART

SHOW

設定内容や統計などの各種の情報を表示するコマンドです。

3.5 設定を保存する

コマンドの実行結果はすぐに本製品に反映されますが、設定内容はランタイムメモリー (RAM)上にあるため、電源のオフ→オンをする、リセットボタンを押す(GS916SS/ GS924SSのみ)、または RESTART コマンドを実行して本製品を再起動すると消去され ます。

再起動後にも同じ設定で運用したい場合は、CREATE CONFIG コマンドを実行して設定 内容をスクリプトファイルに保存します。



使用コマンド

CREATE CONFIG=filename SHOW FILE[=filename]

パラメーター

- CONFIG :設定スクリプトファイル名。文字数は「filename.ext」(ファイル名、ピ リオド、拡張子)全体で1~20文字。半角英数字と記号(-_.()) が使えます。拡張子には通常「.cfg」を付けます。ファイル名、拡張子と も大文字・小文字を区別します。指定したファイルがすでに存在してい た場合は上書きされます。存在しない場合は新規に作成されます。 FILE :ファイル名。大文字・小文字を区別します。
- 設定スクリプトファイルを作成します。
 ここでは、設定スクリプトのファイル名を「test01」と仮定します。

Manager > create config=test01.cfg Enter

2 SHOW FILE コマンドで、ファイルが正しく作成されたことを確認します。

Manager > show file [Enter			
Filename	Device	Size	Created	Attribute
<u>test01.cfg</u>	flash	405	2005-01-01 00:00:35	script

3.5 設定を保存する

設定スクリプトはテキストファイルです。SHOW FILE コマンドでファイル名を指定する と、設定内容が確認できます。

```
Manager > show file=test01.cfg [Enter]
File : test01.cfg
1:
2:#
3:# SYSTEM configuration
4:#
5:
6:#
7:# LOAD configuration
8:#
9:
10:#
11:# CONSOLE configuration
12:#
13:
14:#
15:# VLAN configuration
16:#
17:
18:#
19:# STATIC MAC configuration
--More-- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

3.6 起動時設定ファイルを指定する

本製品が起動するときに、作成した設定スクリプトが実行されるように設定します。起動 時に実行される設定スクリプトファイルを「起動時設定ファイル」と呼びます。

使用コマンド

SET CONFIG=filename SHOW CONFIG

パラメーター

CONFIG

- : 起動時設定ファイル。起動時に読み込まれるデフォルトの設定スクリプ トファイル(「.cfg」ファイル)を指定します。大文字・小文字を区別し ます。
- 記動時設定ファイルを指定します。
 ここでは、設定スクリプトファイル名を「test01」と仮定します。

```
Manager > set config=test01.cfg Enter
```

2 SHOW CONFIG コマンドで、起動時設定ファイルを確認します。

Manager > **show config** Enter

```
Boot configuration file : \underline{test01.cfg} (exist) Current configuration : None
```

「Boot configuration file」が起動時設定ファイル名、「Current configuration」は最後の(再)起動時に読み込んだ設定スクリプトファイル名です。

3.7 ログアウトする

設定が終了したら、本製品からログアウトして、通信ソフトウェアを終了します。

使用コマンド

LOGOFF

- = LOGOUT
- = QUIT
- = EXIT
- = BYE
- 1 LOGOFF コマンドを実行します。

Manager > logoff Enter

セッションが終了し、「login:」プロンプトが表示されます。 2

> Good bye. login:

コマンドラインに何も文字を入力していない状態で、 Crrl + D キーを押してもログアウトでき 2ます。 ヒント



\infty セキュリティーのため、通信ソフトウェアを終了する前に、必ず LOGOFF コマンドでログアウ ▶ トするようにしてください。

4

基本の設定と操作

この章では、本製品を運用・管理するための基本的な設定と操作 方法について説明しています。各機能の詳細については、弊社 ホームページ掲載の「コマンドリファレンス」を参照してくだ さい。

ポートを指定する

スイッチポートは、基本的に次のような形式で表示、入力を行います。

—	物理ポート	表示方法	入力形式
GS908SS	ポート 1 ~ 8	Port/PORT 1 ~ 8	port=n
GS916SS	ポート 1 ~ 16	Port/PORT 1 ~ 16	port=n
GS924SS	ポート 1 ~ 24	Port/PORT 1 ~ 24	port=n

スイッチポートに対する設定コマンドには、複数のポートを一度に指定できるものがあり ます。以下、指定するときの例を示します。

- 1つのポートを指定
 ENABLE SWITCH PORT=2 Enter
- 連続する複数のポートをハイフンで指定 ADD VLAN=black PORT=3-7 Enter
- 連続していない複数のポートをカンマで指定 SHOW SWITCH PORT=2,4,8 Enter
- カンマとハイフンの組み合わせで指定 SHOW SWITCH PORT=2,4-7 Enter
- すべてのポートを意味するキーワード ALL を指定 RESET SWITCH PORT=ALL COUNTER Enter

コンボポートの設定をする

GS916SS のポート 15R. 16R、GS924SS のポート 23R. 24R は SFP ポートとのコン ボ (共用) ポートです。デフォルトでは、1000BASE-T ポートと SFP ポートが同時に 接続されている場合(両方リンク可能な状態にある場合)、SFP ポートが優先的にリンク するよう設定されています(FIBERAUTO)。同時接続時、SFP ポートのリンクがダウン した場合は自動的に 1000BASE-T ポートにリンクが切り替わります。 SET SWITCH PORT コマンドで、使用可能なポートをどちらか一方に固定設定すること

SET SWITCH PORT コマンドで、使用可能なホートをどちらか一方に固定設定すること もできます。

1000BASE-T ポート(COPPER)のみを使用可能な状態にする場合(例はGS916SS)

Manager > set switch port=15 combo=copper Enter

○ SFP ポート(FIBER)のみを使用可能な状態にする場合(例は GS916SS)

Manager > set switch port=15 combo=fiber Enter

コンボポートの設定は SHOW SWITCH PORT コマンドで確認できます。

Manager > show switch port=15 Enter Switch Port Information Port 15 Description Status Enabled Link State Down UpTime Port Media Type Ethernet CSMA/CD Port Type (Combo Actual) -Configured speed/duplex Autonegotiate Actual speed/duplex -MDI Configuration (Polarity) .. Not applicable Acceptable Frame Types Acceptable All Frames Broadcast rate limit -Multicast rate limit -DLF rate limit -Security Mode Automatic Mirroring None Is this port mirror port No Enabled flow control(s) -Combo port Auto Fiber Send tagged pkts for VLAN(s) ... -Port-based VLAN default(1) Ingress Filtering Off Trunk Group Port Priority 0

Combo port

コンボポートの設定。Auto Fiber(SFP ポート優先)/Fix Fiber(SFP ポート固定) /Fix Copper (1000BASE-T ポート固定)

物理インターフェースのほかに、論理インターフェースとして VLAN があります。 VLAN は VLAN ID を使用して n (n は VLAN ID) で指定するか、VLAN 名を使用して vlanname で指定します。

interface=1
interface=default

4.2 IP アドレスを設定する

IP アドレスは、ADD IP IPADDRESS コマンドで VLAN に IP パラメーターを割り当て ることによって作成します。

使用コマンド

ADD IP [INTERFACE={vlan-name|1..4094}] IPADDRESS=ipadd [MASK=ipadd] [GATEWAY=ipadd]

SHOW IP

パラメーター

INTERFACE	: VLAN インターフェース。VLAN 名または VLAN ID で指定します。省
	略時はデフォルト VLAN(default/1)に割り当てられます。
IPADDRESS	: IP アドレス。X.X.X.X の形式で、X が 0 ~ 255 の半角数字を入力します。
MASK	:サブネットマスク。X.X.X.X の形式で、X が 0 ~ 255 の半角数字を入力
	します。省略時は IP アドレスのクラス標準マスクが使用されます。
GATEWAY	:ゲートウェイアドレス。 ルーターを介して、他の IP ネットワークにパケッ
	トを送信する場合は、ゲートウェイアドレスを設定します。

1 VLANにIPアドレスとネットマスクを割り当てて、IPインターフェースを作成します。

ここでは、default VLAN (vlan1) に IP アドレス「192.168.1.10」、サブネット マスク「255.255.255.0」、ゲートウェイアドレス「192.168.1.32」を設定すると 仮定します。

```
Manager > add ip interface=1 ipaddress=192.168.1.10 mask=255.255.255.0
gateway=192.168.1.32 Enter
```

2 SHOW IP コマンドで、IP アドレスの設定を確認します。

```
Manager > show ip Enter

IP Address Information

Interface ...... default

IP address ...... 192.168.1.10

Subnet mask ...... 255.255.255.0

Gateway address ..... 192.168.1.32

MTU ...... 1500
```

SET VLAN MODE コマンドで VLAN モードの変更を行い、設定の保存後本製品を再起動をす ると、IP パラメーターの設定が消去されますので、再度 ADD IP IPADDRESS コマンドで IP パラメーターを設定しなおしてください。

4.3 Telnet で接続する

本製品は Telnet サーバー機能をサポートしています。ここでは、Telnet を使用するため の設定や操作について説明します。

Telnet でログインする

本製品の Telnet サーバー機能はデフォルトで有効(Enabled)になっています。IP アド レスを設定すれば、ネットワーク上のコンピューターから Telnet を使用して、ログイン できます。

Telnet クライアントに設定するパラメーターは次のとおりです。

項目	値
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの送信方法	Ctrl + H
エンコード方法	シフト JIS (SJIS)

Telnet クライアント機能が利用できる機器から、本製品に対して Telnet を実行し 1 ます。 ここでは、本製品に IP アドレス「192.168.1.10」が割り当てられていると仮定し ます。

telnet 192.168.1.10 [Enter]

2 Telnet セッションが確立すると、「login: | プロンプトが表示されます。

login:



Windows 2000/XP で Telnet を使用する場合は、108 ページ [Telnet クライアントの設定] を参照してください。

▶ SET VLAN MODE コマンドで VLAN モードの変更を行い、設定の保存後本製品を再起動をす ると、IP パラメーターの設定が消去されますので、Telnet 接続時はご注意ください。 VLAN モー 注音 ドを変更した場合は、ローカルから再度 ADD IP IPADDRESS コマンドで IP パラメーターを 設定しなおしてください。

Telnet サーバー機能を無効にする

Telnet 接続を拒否する場合は、DISABLE TELNET SERVER コマンドで Telnet サーバー 機能を無効にします。

使用コマンド

DISABLE TELNET SERVER

Manager > disable telnet server [Enter]

Telnet サーバーの TCP ポート番号を変更する

Telnet サーバーのリスニング TCP ポート番号を変更することができます。デフォルトは23 です。

使用コマンド

SET TELNET [LISTENPORT=1..65535]

パラメーター

LISTENPORT : Telnet サーバーの TCP ポート番号。1 ~ 65535 の半角数字を入力しま す。デフォルトは 23 です。

例として、TCP ポート番号を「120」に変更します。

Manager > set telnet listenport=120 Enter

Telnetの最大セッション数を変更する

Telnet を使用して同時に複数のユーザーがログインすることができます。Telnet の最大 セッション数は、1~4の範囲で変更することができます。デフォルトは4です。

使用コマンド

SET TELNET [LIMIT=1..4]

パラメーター

 LIMIT
 : Telnetの最大セッション数。1~4の半角数字を入力します。デフォル トは4です。

例として、最大セッション数を「2」に変更します。

Manager > set telnet limit=2 Enter

Telnet サーバー機能の設定を確認する

Telnet サーバー機能の有効 / 無効、TCP ポート番号、最大セッション数を確認します。

使用コマンド

SHOW TELNET

```
Manager > show telnet Enter

TELNET Module Configuration:

TELNET Server : Enabled

TELNET Server Listen Port : 120

TELNET Connection Limit : 2
```

CentreCOM GS908SS/GS916SS/GS924SS 取扱説明書

4.4 PING を実行する

PING コマンドで、指定した相手との通信が可能かどうかを確認します。PING は指定した相手にエコーを要求するパケットを送信し、相手からのエコーに応答するパケットを表示します。

使用コマンド

PING ipadd

パラメーター

ipadd

: 宛先 IP アドレス。X.X.X.X の形式で、X が 0 ~ 255 の半角数字を入力し ます。

PING を実行します。PING パケットは 5 回送信されます。 Ctrl + C キーを押すと、 実行中の PING を停止することができます。

```
Manager > ping 192.168.1.20 Enter
Pinging 192.168.1.20 with 64 bytes of data:
Reply 1 from 192.168.1.20: bytes=64 times=58ms
Reply 2 from 192.168.1.20: bytes=64 times=51ms
Reply 3 from 192.168.1.20: bytes=64 times=41ms
Reply 4 from 192.168.1.20: bytes=64 times=23ms
Reply 5 from 192.168.1.20: bytes=64 times=41ms
Ping statistics for 192.168.1.20:
Packets: Sent = 5, Received = 5, Bad = 0, Lost = 0 (0% loss)
Approximate round trip times in milliseconds:
Minimum = 23ms, Maximum = 58ms, Average = 42ms
```

PING に対する応答がある場合は「Reply 1 from X.X.X.X: bytes=64 times=Xms」のように表示されます。

PING に対する応答がない場合は「Request timed out.」のように表示されます。 ゲートウェイアドレス未設定時に本製品が所属するサブネット外の宛先を指定すると「No route to specified destination.」と表示されます。

4.5 システム情報を表示する

SHOW SYSTEM コマンドで、システムの全般的な情報を表示します。

使用コマンド

SHOW SYSTEM

```
Manager > show system Enter
Switch System Status
                               Date 2008-02-25 Time 16:26:07
Board Bay Board Name
_____
Base
       -
             GS916SS
Memory - DRAM : 32768 kB FLASH : 8192 kB MAC : 00-09-16-00-02-03
-----
SysDescription : CentreCOM GS916SS Ver 1.4.1 B05
SysContact
          :
SysLocation
            :
SysName
           :
SysName :
SysUpTime : 157927(00:26:19)
Release Version : 1.4.1
Release built : B05 (Feb 14 2008 at 19:26:30)
Flash PROM
           : Good
RAM
           : Good
SW chip
           : Good
UART
           : Good
FAN1
           : Normal
                          FAN2
                                      : Normal
                         1.8V
3.3V
1.25V
           : Normal
                                      : Normal
2.5V
           : Normal
                                      : Normal
5.0V
                          Temperature
           : Normal
                                       : Normal
Configuration
Boot configuration file : Not set
Current configuration : None
```

Board	常に「Base(スイッチ本体)」で表示
Bay	常に「-」で表示
Board Name	製品(部品)の名称
DRAM	実装されている DRAM メモリーの容量
FLASH	実装されているフラッシュメモリーの容量
MAC	製品本体の MAC アドレス
SysDescription	製品およびファームウェアの概要(MIB-IIの sysDescr)
SysContact	管理責任者(MIB-IIの sysContact)
SysLocation	設置場所(MIB-IIの sysLocation)
SysName	システム名(MIB-IIの sysName)
SysUpTime	稼働時間(前回リブートしてからの時間)
Release Version	ファームウェアのバージョン
Release built	ファームウェアのビルト
Flash PROM	フラッシュメモリーのプログラムデータチェックサム演算、照合結果。
	Good/Failed で表示
RAM	ブート時の RAM テスト結果。Good/Failed で表示
SW chip	ブート時のスイッチチップテスト結果。Good/Failed で表示
UART	ブート時の UART テスト結果。Good/Failed で表示
FAN1/FAN2	GS916SS/GS924SSのファンの状態。側面2個のファンのうち前面側
	が FAN2、背面側が FAN1。Normal/Warning/Failed (読み取り失敗)
	で表示
1.25V/1.8V/2.5V/3.	3V/5.0V
	各電源ユニットの出力状態。Normal/Warning/Failed (読み取り失敗)
	で表示
	※ GS908SS では 5.0V は表示されません
	※ GS908SS では 2.5V が 2.5V(A).2.5V(B) の 2 系統表示されます
Temperature	本製品内部の温度状態。Normal/Warning/Failed(読み取り失敗)で表示
Boot configuration f	ïle
	起動時に読み込まれる設定ファイル名
Current configuratio	n
	現在の設定のもととなったファイル名

63

4.6 再起動する

本製品をコマンドで再起動(コールドスタート)します。

使用コマンド

RESTART [REBOOT]

パラメーター

- REBOOT : REBOOT オプション指定時、省略時どちらもコールドスタート(ハード ウェアリセット)を実行します。
- 1 RESTART コマンドを実行します。

Manager > restart Enter

2 本製品を再起動するかどうかのメッセージが表示されたら、Yキーを押します。

Do restart system now ? (Y/N): Y

nvram CRC: computed b0, stored b0

З 自己診断テストの実行後、システムソフトウェアが起動します。また、起動時設定ファ イルが指定されていれば、ここで読み込まれます。

```
CFE version 1.2.0 for Light managed switch series (32bit, SP, BE, MIPS)
Build Date: Wed Feb 6 14:11:39 JST 2008
Copyright (C) 2000,2001,2002,2003 Broadcom Corporation.
Initializing Arena.
Initializing PCI. [normal]
Initializing Devices.
CPU type 0x29006: 200MHz
Total memory: 0x2000000 bytes (32MB)
Total memory used by CFE: 0x81F71000 - 0x81FFF280 (582272)
Initialized Data: 0x81FBB204 - 0x81FBC390 (4492)
BSS Area:
                            0x81FBC390 - 0x81FBD270 (3808)
Local Heap:
                            0x81FBD280 - 0x81FFD280 (262144)
Stack Area:
                            0x81FFD280 - 0x81FFF280 (8192)

        Text (code) segment:
        0x81F71000 - 0x81FBA560 (300384)

        Boot area (physical):
        0x01F30000 - 0x01F70000

Relocation Factor:
                             I:E2371000 - D:E2371000
Initializing Boot parameters.
Loader:elf Filesvs:raw Dev:flash1.os File:vmlinux Options:(null)
Loading: 0x80002000/1499664 0x80172000/1253376 0x802a4000/213024 Entry at
0x80002474
Starting program at 0x80002474
```

「login:」プロンプトが表示されたら、再起動は完了です。 4

login:



RESTART コマンドを実行すると、本製品にログインしていた他のユーザーのログインセッショ コンは強制的に切断されます。

4.7 ご購入時の状態に戻す

すべての設定をご購入時の状態に戻します。この場合、設定スクリプトファイルを削除す る必要はありません。起動時設定ファイルを読み込まずに初期化し、デフォルト値が存在 する設定はすべてデフォルト値で起動します。

使用コマンド

SET CONFIG=filename

パラメーター

CONFIG : 設定スクリプトファイル。ここでは NONE を指定します。

1 起動時に設定スクリプトが読み込まれないようにします。

Manager > set config=none Enter

2 SHOW CONFIG コマンドで、起動時設定ファイルを確認すると、「Not set」と表示されています。

```
Manager > show config Enter
```

```
Boot configuration file : <u>Not set</u>
Current configuration : test01.cfg
```

3 RESTART コマンドで、本製品を再起動します。 本製品は、起動時設定ファイルを読み込まない状態で初期化され、ログアウトします。 ソフトウェア的にはご購入時の状態になりますが、設定スクリプトファイルは削除 されていません。また、ユーザー「manager」のパスワードを変更している場合は、 変更後のパスワードがそのまま適用されます。

Manager > **restart** Enter

Do restart system now ? $(Y/N): \forall$

本製品を完全にご購入時の状態に戻すには、CLEAR FLASH TOTALLY コマンドで設定 スクリプトファイルをすべて削除します。ファームウェアファイル以外のファイルはすべ て削除され、ユーザー「manager」のパスワードは初期パスワード「friend」に戻ります。

65

4.8 ファイルシステム

本製品は、再起動後もデータが保持される2次記憶装置として、フラッシュメモリーを 搭載しています。フラッシュメモリー上にはファイルシステムが構築されており、フラッ シュメモリー上のデータをファイル単位でアクセスすることが可能です。

ファイル名

ファイル名は次の形式で表されます。ディレクトリーの概念はありません。

マァームウェアファイルに限り「@firmware」というディレクトリー下に格納されます。このディ レクトリーは FTP でファームウェアをダウンロードするときに使用しますが、本製品のコマン ドでファイル操作することはありません。

69ページ「ダウンロード・アップロードする」

filename.ext

filename :	1~20文字(拡張子含む)で半角英数字と記号(())が使えます。
	大文字・小文字を区別します。指定したファイルがすでに存在していた
	場合は上書きされます。存在しない場合は新規に作成されます。

ext : 拡張子。ファイル名には必ず拡張子を付ける必要があります。半角英数 字と記号(-_.())が使えます。大文字・小文字を区別します。設定 スクリプトファイルを示す「cfg」、実行スクリプトファイルを示す「scr」、 プレーンテキストファイルを示す「txt」があります。ファームウェアファ イルには「pkg」が付きます。

ファイルを操作する

ファイルを表示する

使用コマンド

SHOW FILE[=filename]

ご購入時の状態では、ファイルシステム上にファイルは存在していません。

Manager > show file	Enter			
Filename	Device	Size	Created	Attribute
No file found				

CREATE CONFIG コマンドで設定スクリプトファイルが作成されていると、SHOW FILE コマンドで表示することができます。

Filename	Device	Size	Created		Attribute
01.cfg	flash	526	2005-01-01	00:23:04	script
02.cfg	flash flash	526	2005-01-01	00:23:09	script
test01.cfg	flash	526	2005-01-01	00:43:42	script
test02.cfg	flash	526	2005-01-01	00:21:04	script

設定ファイルの内容を表示する

使用コマンド

SHOW FILE[=filename]

パラメーター

FILE :ファイル名。大文字・小文字を区別します。

ファイル名を指定すると設定ファイルの内容が表示されます。設定ファイル「test01.cfg」の設定内容を表示します。

```
Manager > show file=test01.cfg Enter
File : test01.cfg
1:
2:#
3:# SYSTEM configuration
4:#
5:
6:#
7:# LOAD configuration
8:#
9:
10:#
11:# CONSOLE configuration
12:#
13:
14:#
15:# VLAN configuration
16:#
17:
18:#
19:# STATIC MAC configuration
--More-- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

4.8 ファイルシステム

ファイルを削除する

使用コマンド

DELETE FILE=filename

パラメーター

FILE :ファイル名。大文字・小文字を区別します。

設定ファイル「test01.cfg」を削除します。

Manager > delete file=test01.cfg Enter

削除したファイルを元に戻すことはできません。ファイル操作時は充分注意を払ってください。 ヒント

ファイルをコピーする

使用コマンド

COPY sourcefile destinationfile

パラメーター

sourcefile	:コピー元ファイル名。大文字・小文字を区別します。
destinationfile	:コピー先ファイル名。1 ~ 20 文字(拡張子含む)で半角英数字と記号(
	())が使えます。大文字・小文字を区別します。

設定ファイル「test01.cfg」を「test02.cfg」という名前でコピーします。

Manager > copy test01.cfg test02.cfg Enter

ワイルドカードを使用する

SHOW FILE コマンド、DELETE FILE コマンドではワイルドカード(*)が使用できます。 ワイルドカードは「任意の文字列」を示すもので、設定スクリプトファイルをすべて削除 するような場合に使用します。

次の例では、「test」で始まるファイルを表示するために、ワイルドカードを使用しています。

Manager > show file=test* Enter					
Filename	Device	Size	Created	Attribute	
test01.cfg test02.cfg	flash flash	483 483	2005-01-01 03:15:09 2005-01-01 03:15:18	script script	

4.9 ダウンロード・アップロードする

本製品は、FTP を使用してファームウェアのダウンロード、設定スクリプトファイルの ダウンロード / アップロードが可能です。

- ファームウェアファイル「gs900ss_vXXX.pkg」
 (XXX はファームウェバージョン。1.4.1 の場合は「gs900ss_v141.pkg」)
 ダウンロードのみ可能
- ・ 設定スクリプトファイル (.cfg)
 ・ ダウンロード / アップロードが可能

本製品の FTP サーバー機能を使用して、ファイルをアップロード / ダウンロードします。 以下の説明は次のような仮定で行います。

FTP でファームウェアをダウンロードする場合は、本製品の「@firmware」というディ レクトリーにダウンロードします。

- 本製品 (FTP サーバー)の IP アドレス 「192.168.1.10」
- ユーザー名「manager」・ログインパスワード「friend」
- FTP クライアントの IP アドレス「192.168.1.20」
- ダウンロードするファームウェアファイルの保存場所「C:¥temp」
- ダウンロードするファームウェアファイル名「gs900ss_v141.pkg」
- 1 本製品に IP アドレスを割り当てます。

Manager > add ip interface=1 ipaddress=192.168.1.10 mask=255.255.255.0 Enter

FTP クライアントに対して PING コマンドを実行して、FTP クライアントとの通信 が可能なことを確認します。通信ができない場合は、設定を見直して通信可能な状態にします。

Manager > ping 192.168.1.20 Enter

3 FTP クライアント側で ftp コマンドを実行して、本製品の FTP サーバーに接続します。

C:¥temp>ftp 192.168.1.10 [Enter]

69

4.9 ダウンロード・アップロードする

4 ユーザー名とパスワードを入力して本製品にログインします。FTP サーバーへのロ グイン時は、ユーザー名の大文字・小文字を区別します(すべて小文字)。

```
Connected to 192.168.1.10.
220 FTP server ready.
User (192.168.1.20:(none)): manager Enter
331 Password required for manager
Password:friend (表示されません)
230 User logged in.
```

本製品の画面には次のメッセージが表示されます。

Info: <ftpd> connected from 192.168.1.20

5 ここでは、ファームウェアを本製品にダウンロードするものと仮定します。まず cd コマンドを実行して、本製品の「@firmware」ディレクトリーに移動します。次に bin コマンドを実行して、FTP の転送モードをパイナリーに変更します。これらの 操作は設定スクリプトファイルに対しては必要ありません。

ftp> cd @firmware [Enter]
250 CWD command successful.
ftp> bin [Enter]
200 Type set to I.

6 ファイルをダウンロード(FTP クライアント→本製品)する場合は「put」を実行します。アップロード(本製品→FTP クライアント)する場合は「get」を実行します。

ftp> put gs900ss_v141.pkg Enter

7 ファイルの転送が行われます。

```
200 PORT command successful.
150 Opening BINARY mode data connection for gs900ss_v141.pkg.
226 Transfer Complete.
ftp: 3882167 bytes sent in 16.34Seconds 237.53Kbytes/sec.
```

8 ファームウェアの場合、ファイル転送が終了するとフラッシュメモリーへの書き込みを開始します。FTPサーバーのタイムアウト時間は60秒ですので、FTPクライアントからの応答がない状態が60秒継続すると、自動的にFTPセッションが切断されます。本製品の画面には次のメッセージが表示されます。

```
Info: Firmware update was started.
Info: <ftpd> disconnected
```

9 書き込みが終了すると、本製品の画面には次のメッセージが表示されます。

Info: Firmware update was completed.

書き込み終了のメッセージが表示されるまで、絶対に電源を切らないでください。フラッシュ 注意メモリーへの書き込み中に電源を切ると、本製品を起動できなくなる可能性があります。

10 ファームウェアの場合は、RESTART コマンドで本製品を再起動します。再起動し ないとダウンロードしたファームウェアは有効になりません。

アップロードするファイルと同じ名前のファイルが保存先のディレクトリーに存在すると、ファ イルをアップロードすることができません。あらかじめアップロードするファイルと同じ名前 のファイルを削除しておいてください。

72

5



この章では、本製品を使用した基本的な構成を3つ例に挙げ、 設定の要点とコマンド入力の手順を説明しています。

5.1 IP ホストとしての基本設定

本製品はご購入時の状態で、レイヤー2スイッチとして機能するよう設定されています。 単なるスイッチとして使うだけであれば、設置、接続後電源を入れるだけで、特に設定は 必要ありません。ただし、Telnetによるログインをしたいときは、本製品に IP アドレス を割り当てる必要があります。



VLAN default (1)

図1 「IPホストとしての基本設定」構成例

準備

1 設置、接続を完了し、本製品に電源を入れます。

ログイン

2 本製品のコンソールポートに接続したコンソールターミナルから、本製品にログインします。ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。

```
login: manager Enter
Password: friend Enter」(「*」で表示されます)
```

IP の設定

遠隔管理(Telnet)のために IP アドレスを設定します。
3 ADD IP IPADDRESS コマンドで本製品に IP アドレスを割り当てます。 ご購入時の状態ではすべてのポートが VLAN default に所属しており、ただちにレイヤー2スイッチとして機能するよう設定されています。VLAN default に IP アドレスを設定することにより、Telnet などにより他のホストから本製品自身へのアクセスが可能になります。また、直接到達できるルーターの IP アドレスをゲートウェイアドレスに設定します。

Manager > add ip interface=default ipaddress=192.168.10.1 mask=255.255.255.0
gateway=192.168.10.5 Enter

```
Operation successful.
```

VLAN default に IP アドレスを設定する場合は、INTERFACE パラメーターを省略 することもできます。

4 IP アドレスの設定は SHOW IP コマンドで確認できます。

```
Manager > show ip Enter

IP Address Information

Interface ...... default

IP address ...... 192.168.10.1

Subnet mask ...... 255.255.0

Gateway address ..... 192.168.10.5

MTU ...... 1500
```

時刻設定・パスワード変更・設定保存

運用管理のために時刻を設定し、セキュリティーを確保するために初期パスワードを変更 します。本製品に対して行った設定を設定スクリプトファイルとして保存し、再起動した ときに現在の設定を再現するために、起動時設定ファイルとして指定します。

5 時刻(日付)を設定します。

Manager > set time=22:00:00 date=2008-02-13 [Enter]

```
System time is 2008-02-13 Wednesday at 22:00:00
```

本製品はリアルタイムクロックを内蔵していないため、再起動するたびに時刻をあ わせる必要があります。SET TIME コマンドで手動で行うこともできますが、ログ などの記録日時を正確に保つためにも、NTP サーバーにアクセスできる環境では、 NTP の利用をおすすめします。

「コマンドリファレンス」/「NTP」

5.1 IP ホストとしての基本設定

6 ユーザー「manager」のパスワードを変更します。 ここでは新しいパスワードとして「openENDS」を仮定します。セキュリティーを 確保するために、初期パスワードは必ず変更してください(変更後のパスワードは 忘れないように注意してください)。

```
Manager > set password Enter
Old password: friend Enter (「*」で表示されます)
New password: openENDS Enter (「*」で表示されます)
Confirm : openENDS Enter (「*」で表示されます)
```

7 現在の設定を設定スクリプトファイルとして保存します。 ここでは、ファイル名を「test01.cfg」と仮定します。

```
Manager > create config=test01.cfg Enter
Operation successful.
```

8 保存された設定スクリプトファイルの内容は、SHOW FILE コマンドで確認できます。

```
Manager > show file=test01.cfg Enter
File : test01.cfg
1.
2:#
3:# SYSTEM configuration
4:#
5:
6:#
7:# LOAD configuration
8:#
9:
10:#
11:# CONSOLE configuration
12:#
13:
14:#
15:# VLAN configuration
16:#
17:
18:#
19:# STATIC MAC configuration
--More-- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

9 保存した設定スクリプトファイルを、起動時設定ファイルとして指定します。

```
Manager > set config=test01.cfg Enter
Operation successful.
```

5.2 タグ VLAN を使用した設定

オフィスが別々のフロアに分かれており、それぞれのフロアに VLAN white、orange を 存在させたいような場合は、タグ VLAN を使用すると便利です(図 2)。 タグ VLAN を使用すれば、VLAN が複数のスイッチをまたがる構成でも、スイッチ間を 1本のケーブルで接続することができます。タグ VLAN を使用しないと、VLAN white で1本、VLAN orange で1本、合計2本のケーブルを使用しなければなりません。

以下の説明は、本製品(GS916SS)2台が、それぞれ5階(5F)と4階(4F)に設置 されていると仮定します。最初に5Fの本製品に設定するコマンド、次に4Fを示します。





準備

1 設置、接続を完了し、本製品に電源を入れます。

5.2 タグ VLAN を使用した設定

ログイン

2 本製品のコンソールポートに接続したコンソールターミナルから、本製品にログインします。ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。

```
login: manager Enter
Password: friend Enter (「*」で表示されます)
```

システム名の設定

3 管理をしやすくするために、本製品にシステム名を設定します。
 1~20文字で半角英数字と記号(#%?¥を除く)が使えます。システム名を設定すると、プロンプトにシステム名が表示されるようになります。5Fの本製品に次のコマンドを入力します。

```
Manager > set system name=5F Enter
Operation successful.
```

Manager 5F>

4Fの本製品に次のコマンドを入力します。

```
Manager > set system name=4F [Enter]
Operation successful.
Manager 4F>
```

VLAN の設定

 VLANを作成します。
 VLAN作成時には、VLAN名とVLANID(VID)を割り当てる必要があります。
 VLAN名は1~20文字の半角英数字と記号(-_.())、VIDは2~4094の 範囲の任意の数値です(1はVLAN defaultに割り当てられています)。ここでは、
 VLAN名として「white」、「orange」、VIDとしてそれぞれ「10」、「20」を仮定します。

```
Manager 5F> create vlan=white vid=10 Enter
Operation successful.
Manager 5F> create vlan=orange vid=20 Enter
Operation successful.
```

4F でも同じコマンドを入力します。

5Fと4Fには、同じVLAN IDを設定しなければなりません。一方、VLAN 名は個々のスイッチ内でしか意味を持たないため、スイッチごとで異なっていてもかまいませんが、混乱を避けるために通常は同じにします。

5 5Fのそれぞれの VLAN にポートを割り当てます。

ここでは「white」に対してポート1~8を、「orange」に対してポート9~15 を割り当てると仮定します。

```
Manager 5F> add vlan=white port=1-8 Enter
Operation successful.
Manager 5F> add vlan=orange port=9-15 Enter
Operation successful.
```

4F でも同じコマンドを入力します。 ここでは、4F も 5F と同じ構成でポートを割り当てると仮定します。

```
Manager 4F> add vlan=white port=1-8 Enter
Operation successful.
Manager 4F> add vlan=orange port=9-15 Enter
Operation successful.
```

6 5Fのポート16を、タグ付きポートとして設定し、VLAN white、orangeの両方 に所属するようにします。

```
Manager 5F> add vlan=white port=16 frame=tagged Enter
Operation successful.
Manager 5F> add vlan=orange port=16 frame=tagged Enter
Operation successful.
```

4F でも同じコマンドを入力します。

5.2 タグ VLAN を使用した設定

7 SHOW VLAN コマンドで VLAN 情報を確認します。

ポート 16 は、タグなしポートとして VLAN default に属したままとなります。他 にも VLAN default 所属のポートが存在し、トラフィックが流れている場合、ポー ト 16 にも VLAN default のプロードキャストパケットが送出されます。これが望 ましくない場合、DELETE VLAN=default PORT=16 コマンドを実行してくださ い。

Manager 5F> show vlan Enter	
VLAN Information (VLAN mode: 802.1Q)	
Name default Identifier 1 Status Static Untagged Ports 16 Tagged Ports None Trunk Ports None Mirror Port None IP Interface None	
Name	
Name orange Identifier 20 Status Static Untagged Ports 9-15 Tagged Ports 16 Trunk Ports None IP Interface None	

IP の設定

遠隔管理(Telnet)のために IP アドレスを設定します。

8 5Fの VLAN white に IP アドレスを割り当てます。

Manager 5F> add ip interface=white ipaddress=192.168.10.1 mask=255.255.255.0 Enter

Operation successful.

4Fの VLAN white に IP アドレスを割り当てます。

Manager 4F> add ip interface=white ipaddress=192.168.10.2 mask=255.255.255.0 [Enter] Operation successful.

時刻設定・パスワード変更・設定保存

運用管理のために時刻を設定し、セキュリティーを確保するために初期パスワードを変更 します。本製品に対して行った設定を設定スクリプトファイルとして保存し、再起動した ときに現在の設定を再現するために、起動時設定ファイルとして指定します。

9 時刻(日付)を設定します。

Manager 5F> set time=22:00:00 date=2008-02-13 [Enter] System time is 2008-02-13 Wednesday at 22:00:00

System cime is not is not sharebady at service

本製品はリアルタイムクロックを内蔵していないため、再起動するたびに時刻をあ わせる必要があります。SET TIME コマンドで手動で行うこともできますが、ログ などの記録日時を正確に保つためにも、NTP サーバーにアクセスできる環境では、 NTP の利用をおすすめします。

[登照]「コマンドリファレンス」/「NTP」

10 ユーザー「manager」のパスワードを変更します。 ここでは新しいパスワードとして「openENDS」を仮定します。セキュリティーを 確保するために、初期パスワードは必ず変更してください(変更後のパスワードは 忘れないように注意してください)。

Manager 5F> set password Enter Old password: friend Enter (「*」で表示されます) New password: openENDS Enter (「*」で表示されます) Confirm : openENDS Enter (「*」で表示されます)

4F でも同じコマンドを入力します。

5.2 タグ VLAN を使用した設定

11 現在の設定を設定スクリプトファイルとして保存します。 ここでは、ファイル名を「test01.cfg」と仮定します。

Manager 5F> create config=test01.cfg Enter

Operation successful.

4F でも同じコマンドを入力します。

12 保存した設定スクリプトファイルを、起動時設定ファイルとして指定します。

Manager 5F> set config=test01.cfg [Enter]

Operation successful.

4F でも同じコマンドを入力します。

5.3 マルチプル VLAN を使用した設定

マルチプル VLAN を使用すると、インターネットマンションや学校などのセキュリティーを必要とするネットワークを簡単に構築することができます。

本製品は、VLAN モードを802.1Q タグ VLAN からマルチプル VLAN モードに切り替え ることによって、自動的にマルチプル VLAN 専用の VLAN を構築します。 ここでは本製品のマルチプル VLAN についての解説と設定について説明します。

マルチプル VLAN モードを選択すると、自動的に UV、CV、NV という 3 つの属性に分類される VLAN が作成されます。VLAN の設定は固定で、新規 VLAN の作成や VLAN 名の変更はできませんが、ポートを UV、CV、NV のいずれかの VLAN に任意に割り当てることができます。UV、CV、NV の各属性と VLAN の定義は下表のとおりです。

	UV	CV	NV
	アップリンク VLAN	クライアント VLAN	ノーマル VLAN
属性	ルーター(インターネット) やサーバーなどの共有機器の 接続を行うための VLAN	各部屋や教室など互いの通信 を制限するコンピューターの 接続を行うための VLAN	通常のスイッチとして使用す るためのマルチプル VLAN から独立した VLAN
VLAN 数 (固定)	3個	33 × 3 個	10個
	UVI	CV1~CV33	
VLAN 名 (周定)	UV2	CV34~CV66	NV1~NV10
	UV3	CV67~CV99	
	UV1:200	CV1~CV33:1~33	
VLAN ID (国史)	UV2:201	CV34~CV66:34~66	100~109
	UV3:202	CV67~CV99:67~99	
所属ポート	1 個の VL/	AN に対して複数ポートの割り	当てが可能

下図は、GS916SS でマルチプル VLAN モードを選択した場合の VLAN 構成です。UV1 と CV2 ~ CV16 にはデフォルトでポートが割り当てられていますが、これらは変更が可 能です。

VLAN 名	所属ポート (デフォルト)
UV1	1
CV2	2
CV3	З
CV4	4
CV5	5
CV6	6
CV7	7
CV8	8
CV9	9
CV10	10
CV11	11
CV12	12
CV13	13
CV14	14
CV15	15
CV16	16



5.3 マルチプル VLAN を使用した設定

マルチプル VLAN を使用したネットワーク構成例を示します。

図3の例では、ポート3~13はCV1、ポート14~16はCV10、ポート1,2はUV1に、 それぞれ属しています。CV1とCV10はクライアント用のグループで、互いに通信する ことはできません。一方、UV1はアップリンク用のグループで、ポート1に接続された 全校サーバーと、ポート2に接続されたルーターにはCV1とCV2の両方のグループか らアクセスすることができます。



図3「マルチプル VLAN を使用した設定」構成例

VLAN モードの変更は、本製品の再起動後に有効になります。

VLAN モードの変更を行い、設定の保存後本製品を再起動をすると、IP パラメーター、ポート トランキングの設定、MAC アドレスのスタティック登録が消去されますので、再度設定しなお してください。なお、マルチプル VLAN とポートトランキングを併用することはできません。

準備

1 設置、接続を完了し、本製品に電源を入れます。

ログイン

2 本製品のコンソールポートに接続したコンソールターミナルから、本製品にログインします。ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。

login: **manager** Enter Password: **friend** Enter」(「*」で表示されます)

VLAN モードの変更

VLAN モードを 802.1Q タグ VLAN からマルチプル VLAN モードに変更します。変更を 有効にするには、設定の保存後再起動が必要です。

3 VLAN モードを変更します。

```
Manager > set vlan mode=multiple Enter
Operation successful.
It will not be activated before saving the setting and rebooting the system.
```

4 設定を設定スクリプトファイルとして保存します。ここでは、ファイル名を [test01.cfg]と仮定します。

Manager > create config=test01.cfg [Enter]

Operation successful.

5 保存した設定スクリプトファイルを、起動時設定ファイルとして指定します。

Manager > set config=test01.cfg Enter

Operation successful.

6 本製品を再起動します。

Manager > restart Enter

Do restart system now ? (Y/N): \bigtriangledown

7 再度、本製品にログインします。

```
login: manager Enter
Password: friend Enter」(「*」で表示されます)
```

5.3 マルチプル VLAN を使用した設定

マルチプル VLAN の設定

B UV1、CV1、CV10の各 VLAN にポートを割り当てます。
 各 VLAN にはデフォルトでポートが割り当てられていますので、マルチプル VLANのポートの割り当ては、SET VLAN PORT コマンドを使用します。ここでは「UV1」に対してポート 1,2を、「CV1」に対してポート 3~13を、「CV10」に対してポート 14~16を割り当てると仮定します。マルチプル VLAN では VLAN 名は大文字・小文字を区別しますので、ご注意ください。

```
Manager > set vlan=UV1 port=1-2 Enter
Operation successful.
Manager > set vlan=CV1 port=3-13 Enter
Operation successful.
Manager > set vlan=CV10 port=14-16 Enter
Operation successful.
```

9 SHOW VLAN コマンドで VLAN 情報を確認します。

```
Manager > show vlan Enter
VLAN Information (VLAN mode: Multiple)
-----
Port Vlan
01 : UV1
02 : UV1
03 : CV1
04 : CV1
05 : CV1
06 : CV1
07 : CV1
08 : CV1
09 : CV1
10 : CV1
11 : CV1
12 : CV1
13 : CV1
14 : CV10
15 : CV10
16 : CV10
------
```

IP の設定

遠隔管理(Telnet)のために IP アドレスを設定します。IP アドレスは UV の VLAN に対して割り当てます。CV の VLAN に対して IP アドレスを割り当てることはできません。

10 VLAN UV1 に IP アドレスを割り当てます。

```
Manager > add ip interface=UV1 ipaddress=192.168.10.1 mask=255.255.255.0
gateway=192.168.10.5 Enter
```

Operation successful.

11 IP アドレスの設定は SHOW IP コマンドで確認できます。

```
Manager > show ip Enter

IP Address Information

Interface ..... UV1

IP address ..... 192.168.10.1

Subnet mask ..... 255.255.255.0

Gateway address ..... 192.168.10.5

MTU ..... 1500
```

時刻設定・パスワード変更・設定保存

運用管理のために時刻を設定し、セキュリティーを確保するために初期パスワードを変更 します。本製品に対して行った設定を設定スクリプトファイルとして保存し、再起動した ときに現在の設定を再現するために、起動時設定ファイルとして指定します。

12 時刻(日付)を設定します。

```
Manager > set time=22:00:00 date=2008-02-13 Enter
System time is 2008-02-13 Wednesday at 22:00:00
```

本製品はリアルタイムクロックを内蔵していないため、再起動するたびに時刻をあ わせる必要があります。SET TIME コマンドで手動で行うこともできますが、ログ などの記録日時を正確に保つためにも、NTP サーバーにアクセスできる環境では、 NTP の利用をおすすめします。

🌆 「コマンドリファレンス」/「NTP」

5.3 マルチプル VLAN を使用した設定

13 ユーザー「manager」のパスワードを変更します。 ここでは新しいパスワードとして「openENDS」を仮定します。セキュリティーを 確保するために、初期パスワードは必ず変更してください(変更後のパスワードは 忘れないように注意してください)。

```
Manager > set password Enter
Old password: friend <u>Enter</u> (「*」で表示されます)
New password: openENDS <u>Enter</u> (「*」で表示されます)
Confirm : openENDS <u>Enter</u> (「*」で表示されます)
```

14 現在の設定を設定スクリプトファイルとして保存します。 ここでは、ファイル名を「test01.cfg」と仮定します。

```
Manager > create config=test01.cfg Enter
```

Operation successful.

15 保存した設定スクリプトファイルを、起動時設定ファイルとして指定します。

```
Manager > set config=test01.cfg Enter
Operation successful.
```

マルチプル VLAN 設定ポート同士でカスケード接続する場合は、UV 所属のポートと CV 所属 ロポートを接続するようにします。



▶ 下図のような構成で UV 所属のポート同士を接続しないでください。本製品配下のコンピュー 注意 ター同士の通信が可能になり、セキュリティーが保たれません。



マルチブル VLAN モード時、802.1Q タグ付きパケットのタグは認識しません。そのまま転送 します。

L CV 所属のポートで、管理機能(Ping など)を使用することはできません。 注意

マルチプル VLAN とその他の機能を併用することはできません。ただし、以下の機能との併用 注意は可能です。

- ポートセキュリティー
- ポートミラーリング

6



この章では、トラブル解決、オプションの SFP モジュールの 取り付け方法、Web GUI の使用方法、Windows のハイパー ターミナルと Telnet アプリケーションの使用方法、本製品の 仕様、サポート機能の主なデフォルト設定、保証とユーザーサ ポートについて説明しています。

6.1 困ったときに

本製品の使用中になんらかのトラブルが発生したときの解決方法を紹介します。

自己診断テストの結果を確認する

本製品は自己診断機能を備えています。起動時や SHOW SYSTEM コマンド実行時に自 己診断テストを行い、異常の内容に応じて動作を制御します。 テスト結果は、SHOW SYSTEM コマンドで確認できます。 異常発生時には「Failed」または「Warning」が表示されますので、お問い合わせの前 に確認してください。

- フラッシュメモリー
- RAM
- スイッチチップ
- UART
- ファンの回転数
- 本製品内部の温度状態
- 電源ユニットの出力状態

62ページ「システム情報を表示する」

LED 表示を確認する

LED の状態を確認してください。LED の状態は問題解決に役立ちますので、お問い合わせの前にどのように表示されるかを確認してください。

ログを確認する

本製品が生成するログを見ることにより、原因を究明できる場合があります。SHOW LOG コマンドで、RAM 上に保存されたメッセージを見ることができます。

```
      Manager > show log Enter

      Days Time
      Lv Message

      000 00:00:28 7
      Switch startup, Ver 1.4.1 B02 Feb 25 2008, 13:21:44

      000 00:00:28 6
      Port 1: interface is up

      000 00:00:28 6
      Port 2: interface is up

      000 00:00:28 8
      User login on serial port

      000 00:02:53 3
      Telnet connection accepted from 192.168.1.10

      000 00:02:56 4
      User login on TELNET

      000 00:03:21 3
      Ftp user 192.168.1.10 login

      000 00:03:32 3
      Ftp user 192.168.1.10 logout

      000 00:03:32 3
      Disconnect ftp connection from 192.168.1.10
```

ログレベル(Lv)とその内容です。

Lv	呼称	内容
7	CRITICAL	きわめて重大な障害が発生している
6	URGENT	緊急を要する情報。障害が発生し、システムの動作に影響を与える (与えた)可能性がある
5	IMPORTANT	管理者の注意を要する重要な情報。障害の可能性がある
4	NOTICE	管理者の注意を要する可能性がある情報
З	INFO	各種イベントの通知。通常運用を示すもので緊急性はない
2	DETAIL	詳細な情報。通常運用時には無視できるが、有効な情報を含む可能 性がある
1	TRIVIAL	DETAIL よりさらに詳細な情報
0	DEBUG	デバッグ用のきわめて詳細な情報。大量のメッセージが出力される 可能性がある

■グメッセージの生成日時には、本製品起動時に NTP が無効の場合は稼働時間(SysUpTime) が表示され、NTP が有効の場合は NTP サーバーから取得した時刻(日付)が表示され ます。NTP 有効時に NTP サーバーからの時刻取得に失敗した場合は、デフォルトの時刻 「2005-01-01 00:00:00」からの稼働時間が表示されます。

トラブル例

電源ケーブルを接続しても POWER LED が点灯しない

正しい電源ケーブルを使用していますか

GS908SSを使用する場合、およびGS916SS/GS924SSをAC100Vで使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。GS916SS/GS924SSをAC200Vで使用する場合は、設置業者にご相談ください。不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

電源ケーブルが正しく接続されていますか

電源コンセントには、電源が供給されていますか

別の電源コンセントに接続してください。

POWER LED は点灯するが、正しく動作しない

電源をオフにした後、すぐにオンにしていませんか 電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

ケーブルを接続しても LINK/ACT LED が点灯しない

接続先の機器の電源は入っていますか

ネットワークインターフェースカードに障害はありませんか

6 付録

6.1 困ったときに

FAULT LED は点灯していませんか

本製品に異常が発生した場合は、FAULT LED が点灯したままになります。リセットボタンを押す(GS916SS/GS924SSのみ)、RESTARTコマンドを実行する、 電源ケーブルを抜き差しするなどして本製品を再起動してください。

通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか

1000Mbpsの通信の場合、接続先の機器もオートネゴシエーションに設定してくだ さい。10/100Mbpsの通信の場合は、SET SWITCH PORT コマンドで通信モー ドをオートネゴシエーション以外に固定設定することができます。接続先の機器を 確認して、通信モードが正しい組み合わせになるように設定してください。

正しい UTP ケーブルを使用していますか

○ UTP ケーブルのカテゴリー

10BASE-T の場合はカテゴリー3以上、100BASE-TX の場合はカテゴリー5以上、 1000BASE-T の場合はエンハンスド・カテゴリー5以上の UTP ケーブルを使用し てください。

○ UTP ケーブルのタイプ

通信モードがオートネゴシエーションの場合、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート / クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することが できます。

10/100Mbpsの通信で、MDI/MDI-X 自動切替を無効に設定する、または通信モードをオートネゴシエーション以外に固定設定する場合は、MDI または MDI-X のどちらかに設定する必要があります(デフォルトは MDI-X)。接続先のポートが MDI の場合は本製品のポートを MDI-X に、接続先のポートが MDI-X の場合は本製品の ポートを MDI に設定すれば、ストレートタイプでケーブル接続ができます。

コンボポートで MDI/MDI-X 自動切替を無効に設定する、または通信モードをオートネゴシエーション以外に固定設定することはできません。

○ UTP ケーブルの長さ

ケーブル長は最大 100m と規定されています。

32ページ「ネットワーク機器を接続する」

LINK/ACT LED は点灯するが、通信できない

ポートが無効 (Disabled) に設定されていませんか SHOW SWITCH PORTコマンドでポートステータス(Status)を確認してください。

コンソールターミナルに文字が入力できない

ケーブルや変換コネクターが正しく接続されていますか

本製品のコンソールポートは、RJ-45 コネクターを使用しています。ケーブルは弊 社販売品の「CentreCOM VT-Kit2 plus」、または「CentreCOM VT-Kit2」を使 用してください。ご使用のコンソールのシリアルポートが D-Sub 9 ピン(オス)以 外の場合は、別途変換コネクターをご用意ください。

なお、「CentreCOM VT-Kit2 plus」は、USB ポートへの接続が可能です。対応OS は、 Window 2000 と Windows XP ですので、ご使用の前にご確認ください。

23 ページ「コンソールを接続する」

通信ソフトウェアを2つ以上同時に起動していませんか

同一の COM ポートを使用する通信ソフトウェアを複数起動すると、COM ポート において競合が発生し、通信できない、または不安定になるなどの障害が発生します。

通信ソフトウェアの設定内容(通信条件)は正しいですか

本製品を接続している COM ポート名と、通信ソフトウェアで設定している COM ポート名が一致しているかを確認してください。 また、通信速度(ボーレート)の設定が本製品と COM ポートで一致しているかを

確認してください。本製品の通信速度は 9600bps です。

コンソールターミナルで文字化けする

COM ポートの通信速度は正しいですか

通信速度(ボーレート)の設定が本製品と COM ポートで一致しているかを確認してください。COM ポートの設定が 9600bps 以外に設定されていると文字化けを起こします。

文字入力モードは英数半角モードになっていますか

全角文字や半角カナは入力しないでください。通常、AT 互換機では Att キーを押し ながら 全角/半角 キーを押して入力モードの切り替えを行います。

ログインできない

ログインセッションの最大数を超えていませんか

本製品のログインセッション数はローカル、リモート(Telnet 接続)合わせて5つ まで(Telnet のセッション数は1~4までで変更可能。デフォルトは4)です。リ モートから、Telnet の最大セッション数の指定より多いセッションを同時に開くこ とはできません。設定が終了したら必ずLOGOFFコマンドでログアウトするよう にしてください。

6.2 SFP モジュール

GS916SS/GS924SSには、オプション(別売)で9種類のSFPが用意されています。 本体前面にある2個のスロットに組み合わせて装着し、ネットワークを柔軟に構成する ことができます。

AT-MG8SX 1000BASE-SX (LC)

 AT-SPSX
 1000BASE-SX (2連LC)

 AT-SPLX10
 1000BASE-LX (2連LC)

 AT-SPLX40
 1000M SMF (40km) (2連LC)

 AT-SPZX
 1000M SMF (80km) (2連LC)

AT-SPBD10-A/AT-SPBD10-B 1000BASE-BX10 (LC) AT-SPBD20-A/AT-SPBD20-B 1000M SMF (20km) (LC)

野社販売品以外の SFP では動作保証をいたしませんのでご注意ください。
 注意

SFP の使用ケーブル、製品使用については、SFP のインストレーションガイドをご覧ください。

SFP モジュールの取り付けかた

SFP はホットスワップ対応のため、取り付け・取りはずしの際に、本製品の電源を切る必要はありません。

SFPには、スロットへの固定・取りはずし用にハンドルが付いているタイプとボタンが付いているタイプがあります。形状は異なりますが、機能的には同じものです。

取り付け

- **1** SFP スロットに付いているダストカバーをはずします。
- 2 SFPの両脇をもってスロットに差し込み、カチッとはまるまで押し込みます。ハンドルが付いているタイプはハンドルを上げた状態で差し込んでください(下図はハンドルが付いているタイプを差し込む例)。



3 SFP に付いているダストカバーをはずします。



取りはずし

- 1 光ファイバーケーブルをはずします。
- 2 ハンドルが付いているタイプは下図のようにハンドルを下げて、ボタンが付いているタイプはボタンを押し、スロットへの固定を解除します。次に SFP の両脇をもってスロットから引き抜きます。



 光ファイバーケーブルを接続していないときは、必ず SFP モジュールのコネクターにダストカ 注意 バーを装着してください。また、SFP スロットを使用していないときは、SFP スロットにダス トカバーを装着してください。

6.3 Web GUI

本製品は Web ブラウザーを利用したグラフィカル・ユーザー・インターフェース(GUI) をサポートしています。ここでは、Web GUI を使用するための設定や操作について説明 します。

Web GUI と CLI では、操作手順や実行可能な項目に一部違いがあります。詳細は「コマンドリファレンス」の「Web GUI」の章を参照してください。

設定環境

本製品で Web GUI を使用する場合は、下記の環境でご使用ください。

- Web ブラウザーは、Microsoft Internet Exploler 6.0 以上(Windows 版)を使用してください。
- モニターは、1024 × 768 以上の解像度で使用することをお勧めします。
 1024 × 768 以上の解像度がない場合、一部のフレームが表示されないことがあります。
- ファイル転送は、Internet Explorer の HTTP 機能を利用します。

設定の準備

Web GUIを使用するには、あらかじめコンソールターミナルからログインし、本製品に 以下の設定を行います。

IP アドレスを設定する

IP アドレスの設定方法については 56 ページ「IP アドレスを設定する」を参照してください。

HTTP サーバー機能を有効にする

本製品のHTTPサーバー機能はデフォルトで無効(Disabled)になっています。Web GUIを使用するには、HTTPサーバー機能を有効にしてください。

使用コマンド

ENABLE HTTP SERVER SET HTTP LISTENPORT SHOW HTTP SERVER **1** HTTP サーバー機能を有効にします。

Manager > enable http server Enter

2 HTTP サーバーのリスニングTCP ポート番号を変更することができます。デフォ ルトは80です。

Manager > set http listenport=180 Enter



3 HTTP サーバー機能の設定は、SHOW HTTP SERVER コマンドで確認できます。

```
Manager > show http server Enter

HTTP Server Module Configuration:

Status : Enabled

HTTP Server Listen Port : 180
```

本製品の HTTP サーバー機能は Web GUI 専用です。その他の用途はサポート対象外ですので、 ご了承ください。

ログインする

Web ブラウザーを使用して本製品にログインします。

- Web ブラウザーを記動します。
- 「アドレス」に本製品のIPアドレスを入力し、Enter キーを押します。ここでは、本 2 製品に IP アドレス「192.168.1.40」が割り当てられていると仮定します。 本製品の HTTP サーバーの TCP ポート番号を変更している場合は、IP アドレスに 続けて「コロン(:) TCP ポート番号」の形式で TCP ポート番号を入力します(例: 192.168.1.40:180)



次のダイアログボックスが表示されたら、「ユーザー名」と「パスワード」を入力し З ます。ここでは、ユーザー名「manager」と初期パスワード「friend」を入力する ものとします(入力したパスワードは「*」で表示されます)。 入力したら「OK」をクリックします。

? 🔀	接続 ?	192.168.1.123 (z
2	11 10 10 10 10 10 10	ği) 10
		GS900SS series
~	🕵 manager 👻	ユーザー名(山):
	жжжж	パスワード(<u>P</u>):
	パスワードを記憶する(B)	
	OK キャンセル	
L	OK ++>+21	

4 ログインに成功すると、下記の画面が表示されます。



▶ 本製品は、同時に複数のユーザーが Web GUI からログインすることが可能です。あるユーザー □→ が設定を変更した後に、別のユーザーが同じ設定を変更した場合、設定は上書きされますので ご注意ください。

画面の構成

設定画面は、次の4つのエリアで構成されています。

2] ContracOM GS#0055 5 ファイル(2) 編集(2) 表示(3) (3) 戻る ・ (3) - (*) (2) Pドレス(3) (4) http://1921(68112	F タン Series - Microsoft Int お気に入り後 ツール① 2 公 の 株米 会 23/	net Ex ヘルプ団 気に入り	plorer	• 🎍 🖃	• 3		 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日
	機器監視 - シン Version 1:41 MAC Ad	<mark>ステム#</mark> dr: 00-09-	有報 -16-00-02-03				0
ロシステム設定 ロスイッチ設定 日セキュリティー設定 日間電気機 - ジャック() - パインター - F108 - レーラ() - パインター - F108 - レーラ() - パインター - アレーラ() - パインター - パインター - パイン - パーン - パー			12 H	* © 73 ()	LZII) E	na Xed 20 E 1	[1-09] (g)
= = ₹ - 9 x + - 9 x - - - - - - - - - - - - -	SysDescription SysDonteot SysLocation SysName		CentreCOM G	391633 Ver 1.4	1 804		
	SysUpTime Release Version Release built	d.	2100768(06.50 1.4.1 804 (Feb 8 20)	1107) 38 at 13 21 44)			
	ハードウェア皆最 DRAM Flash MA07Fレス		32768 kB 8192 kB 00-09-16-00-	02-00			
	Flash PROM Good TEE 1.25V	RAM Good	SW chip Good	UART Good 2.5V	温康 Normal 3.33	FAN1 Normal	FAN2 Normal
Alia Sopyrishte22 Allied Telesis	Holdings KK. All Rights Rese	rved	lormal	Normal	Norm	8 通信相表示	Normal 詳細情報(余な

トップエリア

トップエリア(画面上部のフレーム)には、製品名、現在選択されているメニュー項目、 ファームウェアバージョン名、MAC アドレスが表示されます。

現在選択されているメニュー項目は、「大項目 – 小項目」の形式で表示されます(例: 機器監視 – システム情報)。メニュー項目は機能別におおまかなグループ分けがされて います。大項目として表示されるのがグループ名、小項目として表示されるのがメニュー 項目の最小単位の機能名です。

メニューエリア

メニューエリア(画面左のフレーム)には、メニューがツリー状に表示されます。

メニューの大項目(グループ名)をクリックすると、小項目が表示されます。 小項目(機能名)をクリックすると、選択された項目は黄色で表示され、メインエリアに その機能に関する設定画面やステータス表示画面が表示されます。



メニューの上には、「保存」、「終了」の2つのボタンがあります。

保存終了

「保存」ボタン

現在の設定内容を保存するボタンです。各設定画面の「設定」ボタンがクリックされると、「保存」ボタンが赤に変わります。

「終了」ボタン

102

本製品からログアウトし、設定画面を閉じます。

メインエリア

メインエリア(画面右のフレーム)には、メニューエリアで選択した小項目(機能名)に 関する、設定項目やステータスが表示されます。

コピーライトエリア

コピーライトエリア(画面下部のフレーム)には、弊社のロゴとコピーライト(著作権) が表示されます。

メインエリアの操作

メインエリアで使用する主な操作ボタンは、次のとおりです(下の画面は「バーチャル LAN」メニューの場合)。

□ イングレスフィルタリング有効 〕 設定 りゼット	
設定 リセット	
- 設定 - ソビジド	
Nグループー覧	
VLAN名 VID タグ付きポート	タグなしポート
default 1 None	al

「設定」ボタン

入力した内容を本製品の動作に適用するボタンです。「設定」ボタンのクリックによ り、設定内容はただちに本製品の動作に反映されます。

「リセット」ボタン

入力した内容を消去し、本製品に適用した設定内容(機器からの読み込み値)に戻 すポタンです。

「追加」ボタン

テーブルにエントリーを追加するボタンです。「追加」ボタンをクリックすると、設 定画面が表示されるので、必要な項目に入力して「適用」ボタンをクリックします。

「変更」ボタン

すでにテーブルに追加・登録されているエントリーを変更するボタンです。変更し たいエントリーのラジオボタン(またはチェックボックス)をクリックして、「変更」 ボタンをクリックします。設定画面が表示されるので、必要な項目に入力して「適用」 ボタンをクリックします。

「削除」ボタン

すでにテーブルに追加されているエントリーを削除するボタンです。

設定を保存する

設定内容は「設定」ボタンのクリックによってただちに本製品に反映されますが、ランタ イムメモリー上にあるため、本製品を再起動すると消去されます。 再起動後にも同じ設定で運用したい場合は、設定内容をスクリプトファイルに保存します。

- 1 「保存」ボタンをクリックします。
- 2 「コンフィグレーション保存」画面が表示されます。 新規にファイルを作成して保存する場合は、「新規ファイルに保存する」ラジオボタ ンをクリックして、ファイル名を入力してください。

「起動時設定ファイルに保存する」ラジオボタンをクリックすると、現在選択されて いるファイル(起動時設定ファイル)に上書き保存します。

「既存ファイルに保存する」ラジオボタンをクリックすると、現在本製品のファイル シシテムに保存されている設定ファイルに保存します。プルダウンメニューから保 存するファイルを選択してください。

最後に「保存」ボタンをクリックします。

🗿 Save Configuration - Microso	ft Internet Explorer
	コンフィグレーション保存
設定保存	
起動時設定ファイル : test01.cfg	
⊙ 起動時設定ファイルに保存す	13
○ 既存ファイルに保存する	test01.cfg 🗸
○ 新規ファイルに保存する	ファイル名 example.cfgl
	保存

3 保存が完了すると、「コンフィグレーション保存」画面が閉じ、「保存」ボタンは赤から青に戻ります。

起動時に読み込まれるデフォルトの設定スクリプトファイル(起動時設定ファイル)を指定する場合は、「コンフィグファイル」メニューで行います。

- **1** メニューエリアの「マネージメント」をクリックします。
- 2 「コンフィグファイル」をクリックし、「コンフィグファイル」画面を表示します。
- 3 「起動時設定ファイル変更」でプルダウンメニューから起動時に読み込まれるデフォ ルトの設定スクリプトファイルを選択します。
- 4 「設定」ボタンをクリックします。

6.4 ハイパーターミナルの設定

コンソールターミナルとして、Windows 2000/XP に標準装備のハイパーターミナルを 使用する例を示します。 (RS-232 ストレートケープルは、COM1 に接続すると仮定します。)

Windows Vista にはハイパーターミナルが標準添付されていません。別途、コンソールターミナル (通信ソフトウェア)をご用意ください。

- ハイパーターミナルを起動します。
 [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム (すべてのプログラム)] をポイントします。次
 に[アクセサリ]をポイントし、[通信] をポイントします。次に[ハイパーターミナル] をクリックします。
- 2 [接続の設定]ダイアログボックスが表示されます。[名前]ボックスで名前を入力し、 [アイコン]ボックスでアイコンを選んで、[OK]をクリックします。 モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合 は、[いいえ]をクリックします。
- 3 接続方法を設定します。
 Windows 2000 の場合 [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。
 [接続方法] ボックスで、[Com1 ヘダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows XP の場合 - [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。 [接続方法] ポックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。

4 「COM1 のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。 各項目を下図のように設定して、[OK] をクリックします。 (下の画面は Windows XP の場合)

M1のプロパティ ペートの設定		?
ビット/秒(<u>B</u>):	9600 🗸	1
データ ビット(<u>D</u>):	8	
/∜IJティ(<u>P</u>):	なし 💌	
ストップ ビット(S):	1	
フロー制御(<u>F</u>):	א-גיטידע	
	既定値に戻す(R)	
	K キャンセル 通用(4	A)

5 「XXXX-ハイパーターミナル(HyperTerminal)」のような、手順2で設定した名前のウィンドウが表示されます。

[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。次に [設定] タブをクリッ クし、各項目を下図のように設定し、[OK] をクリックします。

(下の画面は Windows XP の場合)

XXXXのプロパティ		?×
接続の設定設定		
 ファンクション キー、方向キ ● ターミナル キー① 	ー、Ctrl キーの使い方 ○ Windows キー(<u>W</u>)	
BackSpace キーの送信7 ③ Ctrl+H(©) 〇 Del(回)	5法) 〇Ctrl+H、Space、Ctrl+H(<u>H</u>)	
Iミュレーション(E):		
VT100J	✓ ターミナルの設定(⊆)	
Telnet ターミナル ID(<u>N</u>):	VT100	
バッファの行数(<u>B</u>):	500	
□ 接続/切断時に音を鳴	6す(<u>Р</u>)	
エンコード方法型	ASCII 設定(<u>A</u>)	I
	OK +7	ンセル

6 以上で、設定が終わりました。
 Enter キーを押すとログインセッションが開始され、「login: 」プロンプトが表示されます。

6.5 Telnet クライアントの設定

本製品は Telnet サーバーを内蔵しているため、他の Telnet クライアントからネットワー ク経由でログインすることができます。

ここでは、Windows 2000/XPの Telnet クライアントの設定方法を説明します。



ネットワークに合わせて TCP/IP プロトコルの環境設定を行います。

Windows 2000 の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に[コ ントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルク リックします。次に[ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定 を行います。

Windows XP の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をポイントします。次に[ネットワークとインターネット接続] アイコンをクリックし、[ネットワーク接続] アイコンをクリックします。次に[ローカルエリア接続]を右クリックし、[プロパティ]をクリッ クします。 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定 を行います。

各製品に添付されているマニュアルをご覧になり、IP アドレスなどを正しく設定してください。

- 2 Telnet クライアントを起動します。 [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET」と入力して、[OK] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET 192.168.200.1」のように、TELNET に続けて本製品の IP アドレスを指定することもできます。
- 3 ターミナルの設定を行います。 次のコマンドを入力して、Enterlキーを押します。漢字コードセットをシフト JIS に設定するには、 SET CODESET Shift JIS コマンドを実行します。

Microsoft Telnet> SET TERM VT100

4 本製品の Telnet サーバーに接続します。 次のコマンドを入力して、Enter キーを押します。OPEN に続けて本製品の IP アドレスを指定 します。

Microsoft Telnet> OPEN 192.168.200.1

5 以上で、設定が終わりました。
 Enter キーを押すとログインセッションが開始され、「login: 」プロンプトが表示されます。

6.6 仕 様

ここでは、コネクターのピンアサインやケーブルの結線、電源部や環境条件など本製品の 仕様について説明します。

コネクター・ケーブル仕様

1000BASE-T (10BASE-T/100BASE-TX) インターフェース

RJ-45型のモジュラージャックを使用しています。

12345678

コンタクト	10005	BASE-T	10BASE-T 100BAS-TX
	MDI	MDI-X	MDI
1	BI_DA +	BI_DB +	TD +(送信)
2	BI_DA -	BI_DB -	TD-(送信)
3	BI_DB +	BI_DA +	RD +(受信)
4	BI_DC +	BI_DD +	未使用
5	BI_DC -	BI_DD -	未使用
6	BI_DB -	BI_DA -	RD - (受信)
7	BI_DD +	BI_DC +	未使用
8	BI_DD -	BI_DC -	未使用

ケーブルの結線は下図のとおりです。

○ 1000BASE-T



○ 10BASE-T/100BASE-TX





RS-232 インターフェース

RJ-45 型のモジュラージャックを使用しています。

RD-232 DCE	信号名(JIS 規格)	信号内容
1	RTS (RS)	送信要求
2	NOT USED	未使用
3	TXD (SD)	信号データ
4	GND (SG)	信号用設置
5	GND (SG)	信号用設置
6	RXD (RD)	受信データ
7	NOT USED	未使用
8	CTS (CS)	送信可


本製品の仕様

_	GS908SS	GS916SS	GS924SS	
	IEEE 802.3 10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3z 1000BASE-SX/LX * 1 IEEE 802.3ab 1000BASE-T IEEE 802.3x Flow Control IEEE 802.3d Link Aggregation (Manual Configuration) IEEE 802.1Q VLAN Tagging			
適合規格				
安全規格	UL60950-1, CSA-C22.2 No.60950-1			
EMI 規格	VCCI クラス A			
電源部				
定格入力電圧	AC100-120V	AC100-240V		
入力電圧範囲	AC90-132V	AC90-264V		
定格周波数	50/60Hz			
定格入力電流	0.5A	0.8A	1.1A	
最大入力電流(実測値)	0.37A	0.73A	1.0A	
平均消費電力	18W(最大20W)	33W(最大42W)	48W(最大58W)	
平均発熱量	64kJ/h(最大72kJ/h)	120kJ/h(最大150kJ/h)	170kJ/h(最大210 kJ/h)	
環境条件				
保管時温度	-20 ~ 60°C			
保管時湿度	95% 以下(ただし、結露なきこと)			
動作時温度	0~40°C 0~50°C			
動作時湿度	80%以下(ただし、結露なきこと)			
外形寸法				
	263 (W) × 179 (D) × 38 (H) mm	440 (W) × 210 (D)	× 44 (H) mm	
質量				
	1.5kg	2.9kg		
スイッチング方式				
	ストア&フォワード			
MAC アドレス登録数				
	8K(最大)			
メモリー容量				
パケットバッファー容量	512KByte			
フラッシュメモリー容量	8MByte			
メインメモリー容量	32MByte			

※1 GS916SS/GS924SSのみ

6.7 デフォルト設定

本製品サポート機能の主なデフォルト設定です。各機能の詳細なデフォルト設定について は、コマンドリファレンスを参照してください。

設定	デフォルト		
マネージメント			
コンソールポート ボーレート	9600bps		
ユーザー名	manager		
パスワード	friend		
ログインセッション タイムアウト	300(秒)		
Telnet サーバー機能	Enabled		
Telnet サーバー TCP ポート番号	23		
Telnet ログインセッション数	4		
HTTP サーバー機能	Disabled		
システム名 (sysName)	None		
システム管理者(sysContact)	None		
システム設置場所(sysLocation)	None		
NTP クライアント機能	Disabled		
NTP サーバーへの接続 UDP ポート番号	123		
FTP サーバー機能	Enabled		
FTP サーバー TCP ポート番号	21		
ターミナルの1ページ当たりの行数	22		
ログ	Enabled		
ログ出力	Temporary : Enabled		
	Syslog : Disabled		
syslog サーバーへの接続 UDP ポート番号	514		
メッセージのログレベル	3 (以上)		
システム時刻(日付)	2005-01-01 Saturday at 00:00:00		
	Exchlori		
	Enabled		
	None		
	Autonegotiate		
	Automatic		
コンホホートのリンク優先ホート			
	Eliableu		
トランクグループ石			
ポートセキュリティー			
ポートプライオリティー値			
ポートミラーリング	None		
パケットストールプロテクション	Off		
受信レート検出	Disabled		
	Disabled		
イングレスフィルタリング	Off		
ポート認証	Disabled		
BPDUパケット透過	Disabled		
EAPパケット透過	Disabled		
	Disabled		
バーチャルノAN			
VLAN 名 /VLAN ID	default/1		
フォワーディングデータベース			
エージングタイム(MAC アドレス保持時間)			

設定	デフォルト		
QoS			
802.1p ユーザーブライオリティー値(Priority)と キュー(Queue)のマッピング	Priority=Queue 0=1 1=0 2=0 3=1 4=2 5=2		
	6=3 7=3		
DSCP 値 (DSCP) とキュー (Queue) のマッピング	DSCP 0 ~ 63=Queue 0		
キュー(Queue)ごとの重み付けの比率(Weight)	Queue=Weight 0=1 1=4 2=10 3=15		
スケジューリング方式	Weighted Round Robin		
IP			
	0.0.0.0		
アクセスフィルター			
アクセスフィルター	(全サービス)Disabled		
IPマルチキャスト			
IGMP スヌーピング	Disabled		
IGMP スヌーピング タイムアウト	260 (秒)		

6.8 保証とユーザーサポート

保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載さ れています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の 内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

Image: 0120-860332携帯電話/PHSからは:045-476-6218月~金(祝・祭日を除く)9:00~12:0013:00~17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、 事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこ れらに限定されない)につきましても、弊社は、その責を一切負わないこととします。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊 社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

http://www.allied-telesis.co.jp/support/info/

0120-860772
 携帯電話 /PHS からは:
 月~金(祝・祭日を除く)

045-476-6203 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 18:00

サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、 弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。 なお、都合によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。 サポート ID 番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただ いてかまいません。

- サポートの依頼日
- お客様の会社名、ご担当者名
- ご連絡先
- ご購入先

2 製品について

- 製品名、製品のシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev)などのハードウェ ア情報をお知らせください。
 製品のシリアル番号と製品リビジョンコードは、製品に貼付されているシリアル番 号シールに記入されています。
 - (例) S/N 0047744990805087 Rev A1
- ファームウェアバージョンをお知らせください。
 ファームウェアバージョンは、SHOW SYSTEM コマンドで表示されるシステム情報の「Release Version」の項で確認できます。
- オプション(別売)製品を使用している場合は、製品名をお知らせください。

3 お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に(再現できるように)お知らせください。
- 可能であれば、早期解決のために、エラーメッセージやエラーコード、設定ファイ ルをお送りください(パスワードや固有名など差し障りのある情報は、抹消してお 送りくださいますようお願いいたします)。

4 ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図 をあわせてお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせく ださい。

6.8 保証とユーザーサポート

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社(弊社)の親会社であ るアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一 部をコピー又は転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

©2008 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOM は、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。 Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の 国における登録商標または商標です。

その他、この文書に掲載されているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商 標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがありま す。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方 自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

日本国外での使用について

弊社製品を日本国外へ持ち出されるお客様は、下記窓口へご相談ください。

00 0120-860442

月~金(祝・祭日を除く) 9:00~17:30

マニュアルバージョン

2008年3月 Rev.A 初版